

渡部学先生寄贈

朝鮮の民間流布初学入門書目録

— 付 解 説 —

中央大学図書館

1986

渡部学先生寄贈

朝鮮の民間流布初学入門書目録

— 付 解 説 —

中央大学図書館

冊子体目録の刊行にあたって

この目録は、渡部学武蔵大学名誉教授が朝鮮における民間教育史研究のために、長年にわたって収集された図書を整理したものである。

これらの資料はとくに先生がその保存、利用を考えられて、本学がその研究機関としてもっとも適しているのご判断から、本学文学部船木勝馬教授を介して寄贈されたもので、まことにありがたく、そのご芳志に対し、深謝申しあげたい。

分類・目録作成においては、筑波大学地域研究科・静岡大学工業短期大学の西川孝雄講師に再三のご指導ご協力を仰ぎ、さらに韓国研究院図書室には、同類の朝鮮本を所蔵する日本の図書館名を調査する上で、同室にある各種蔵書目録類を利用させていただいたことを、厚くお礼申しあげたい。

本目録の刊行にあたっては、船木教授が執筆・編集し、補完的な作業は図書館整理課橋本紘治副課長が、総括的なまとめは図書館整理課大越鉄雄課長が担当した。

なにぶんにも日常業務のかたわら、しかも短期間に本目録を編集したため、万全を期し得なかったので、専門的には種々の問題があろうが、今後利用者各位のご指導をいただき、後日訂正の機会を得たいと思っている。この目録が広く各界において有効にご活用いただければ幸甚の至りである。

1986年10月

図書館長 中田 易直

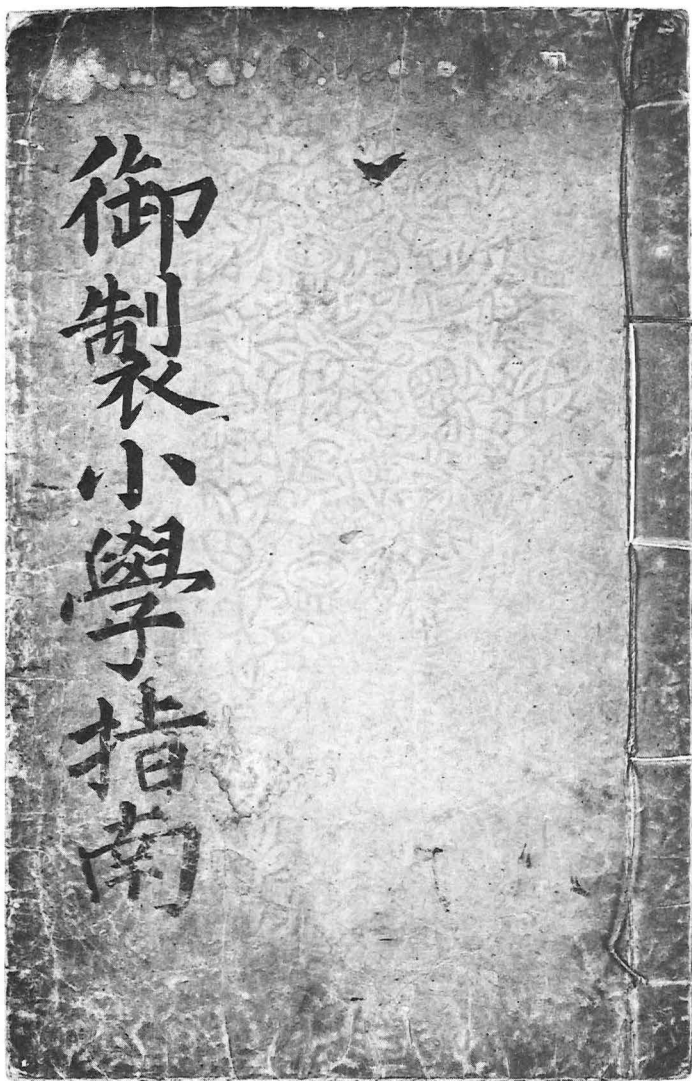


图1 御製小学指南

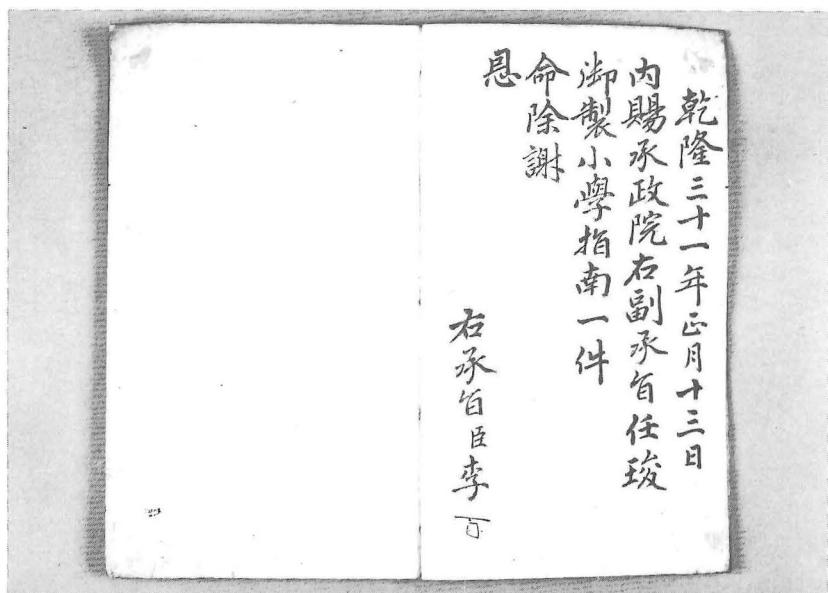


图2 御製小学指南

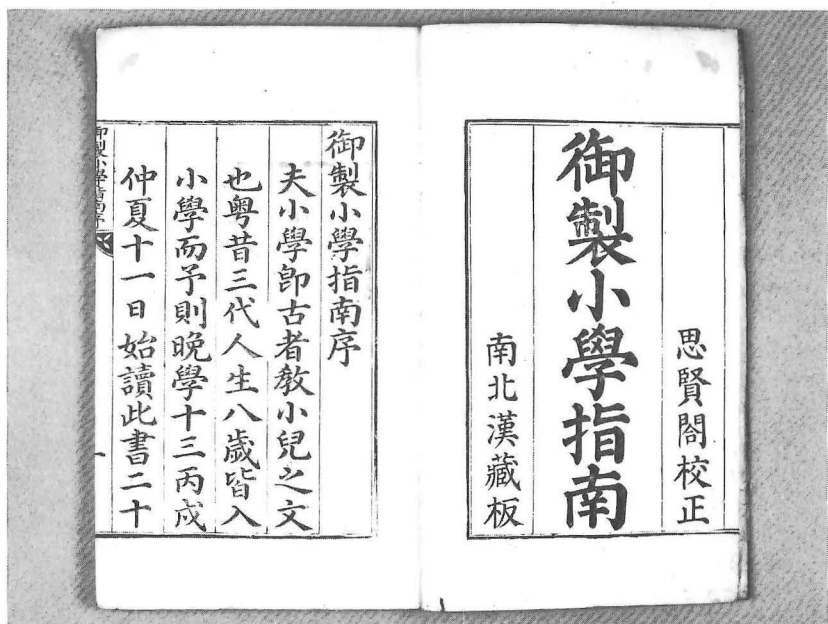


图3 御製小学指南

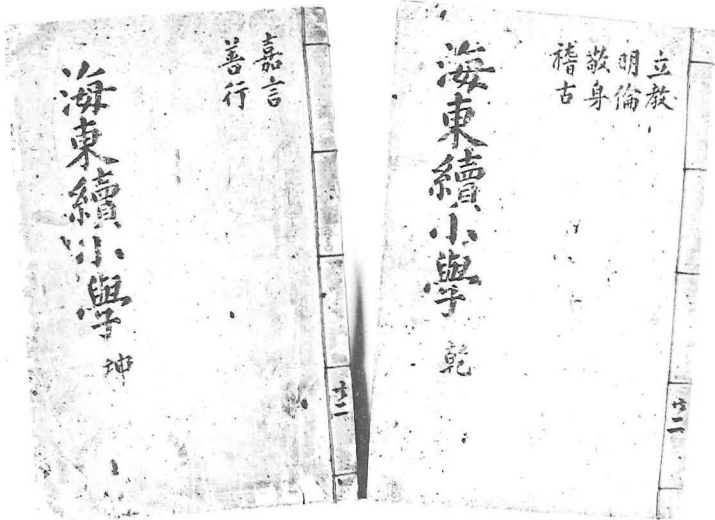


図4 海東続小学

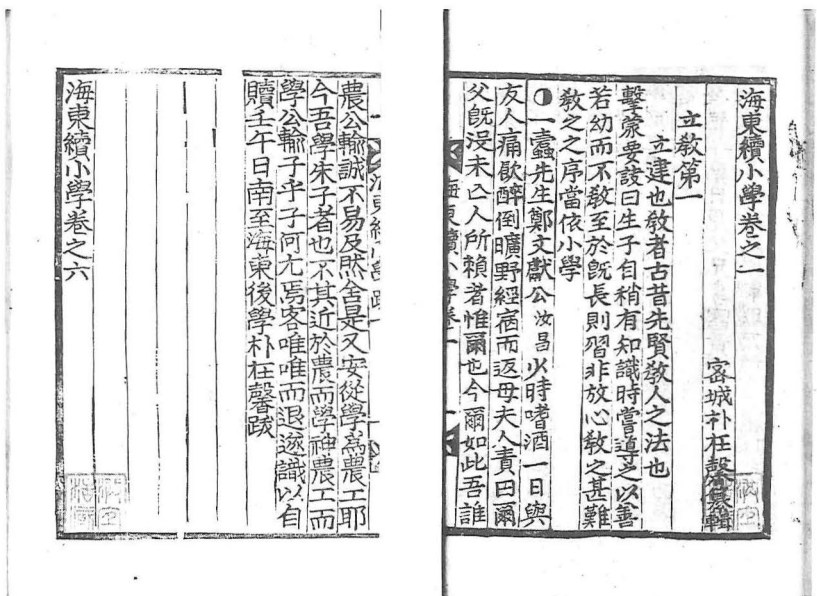


図5 海東続小学(坤)

図5 海東続小学(乾)

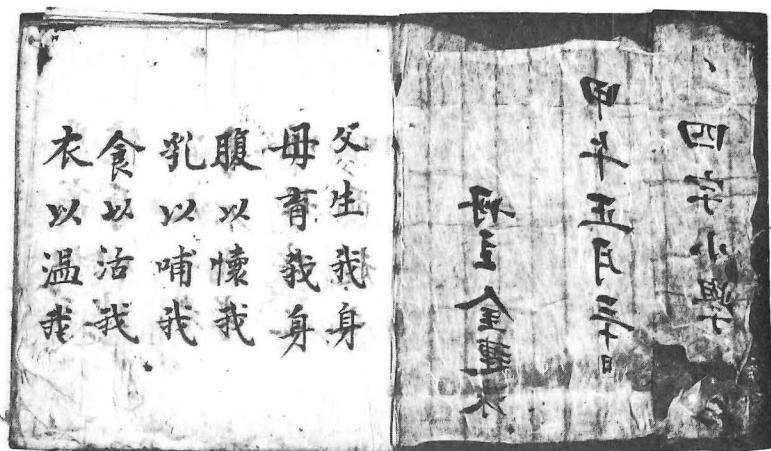


图6 四字小学

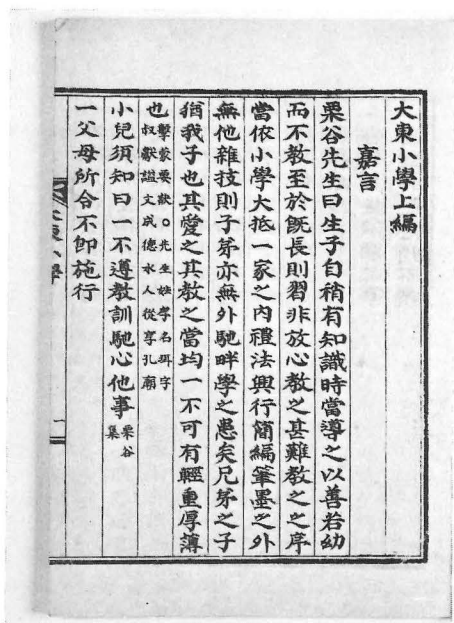


图7 大東小学

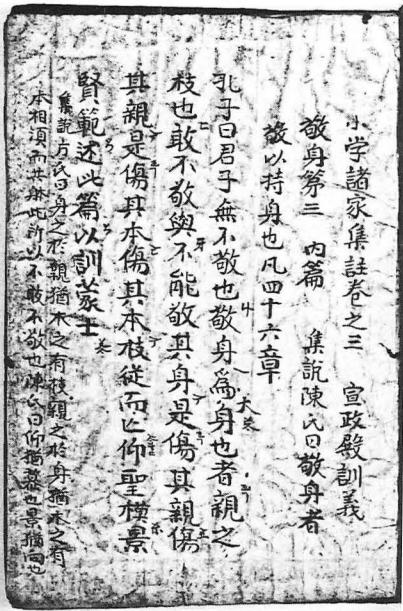


图 8 小学諸家集註



图 9 註解千字文



图10 蒙学二十字

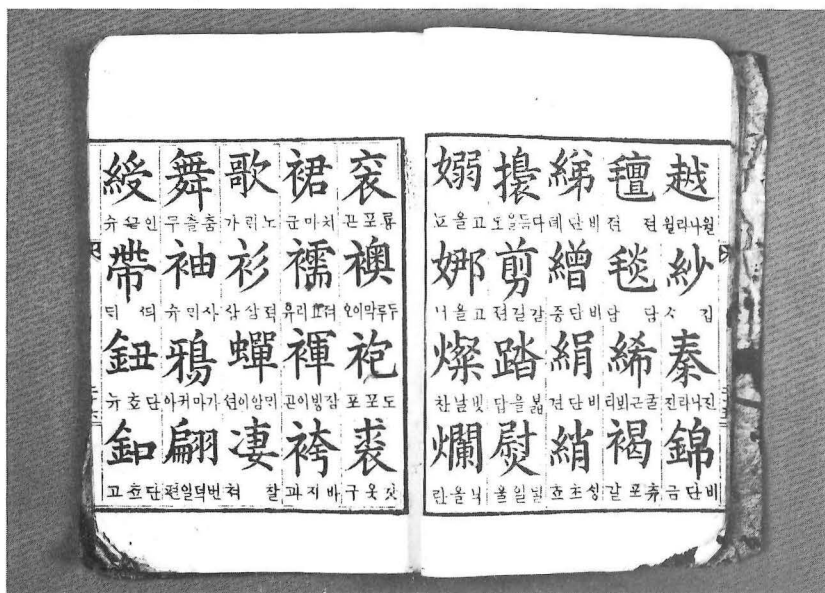


图11 蒙学二十字

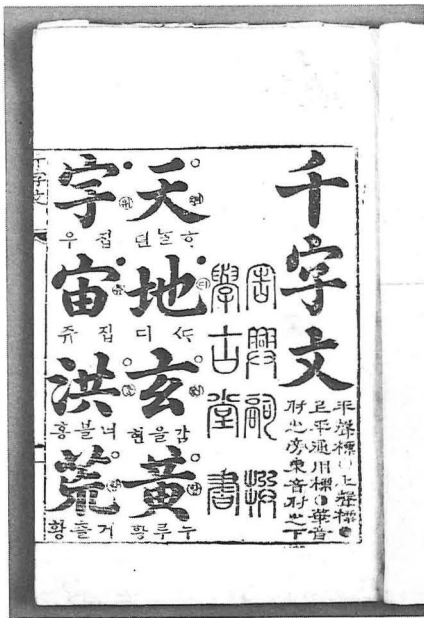


图12 千字文

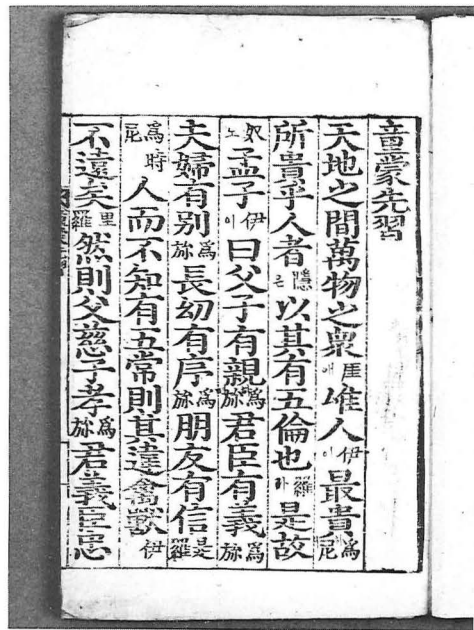


图13 童蒙先習



图14 幼蒙先習

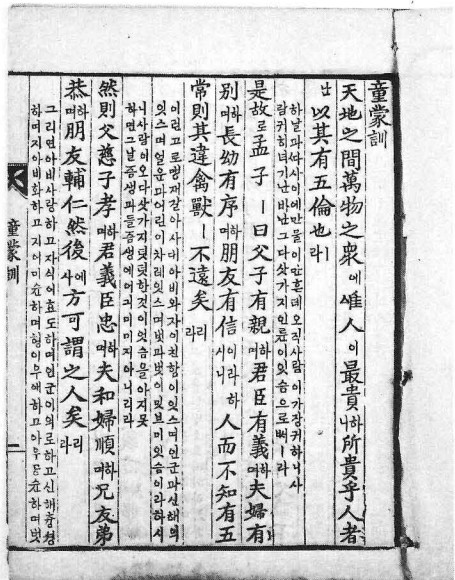


图15 童蒙訓



圖16 童子習

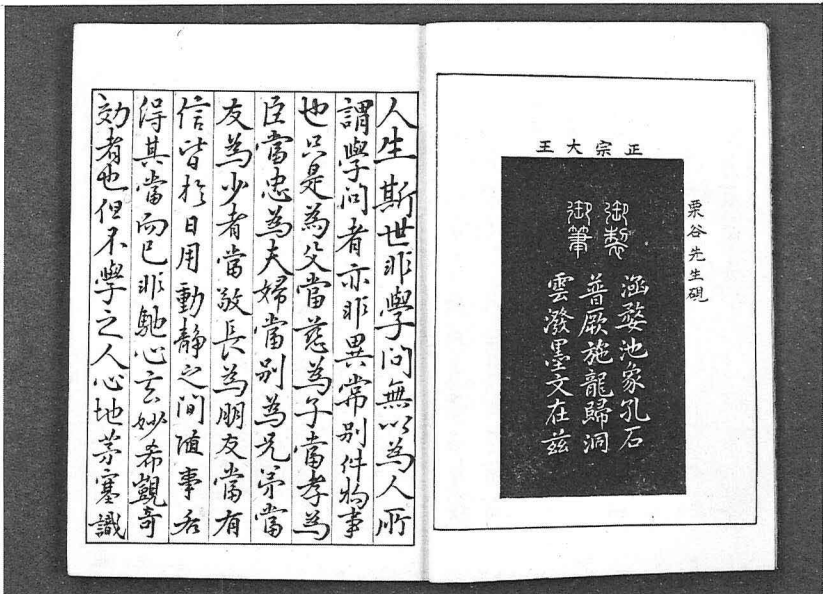


圖17 擊蒙要訣

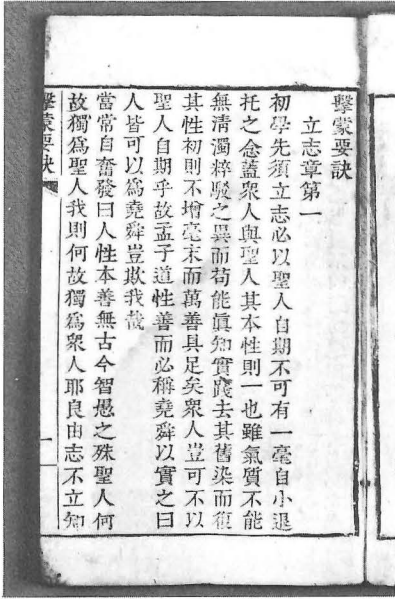


圖18 擊蒙要訣

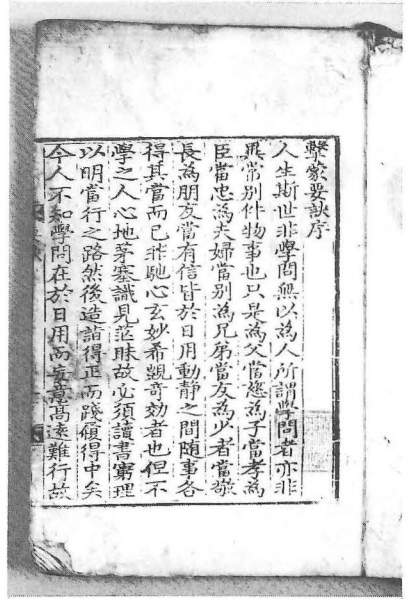


圖19 擊蒙要訣

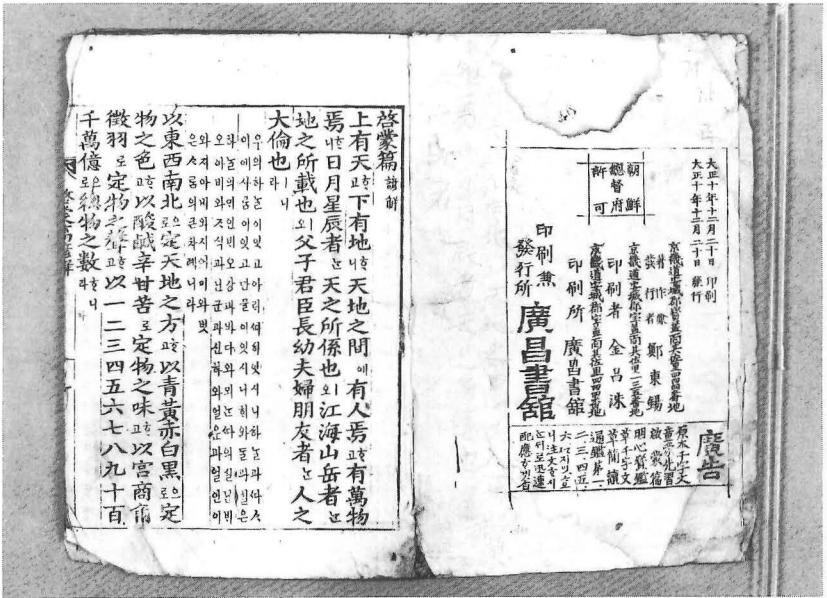


圖20 啓蒙篇諺解

擊蒙要訣

立志章第一

初學先須立志必以聖人自期不可有一毫自小退托之念蓋眾人與聖人其本性則一也雖氣質不能無清濁粹駁之異而苟能真知實踐去其舊染而復其性初則不增毫末而萬善具足矣眾人豈不可以聖人自期乎故孟子道性善而必稱堯舜以實之曰人皆可以為堯舜豈欺我哉
當常自奮發曰人性本善無古今智愚之殊聖人何故獨為聖人我則何故獨為眾人耶良由志不立知

陸蒙要訣

擊蒙要訣序

人生斯世非學罔無以為人所謂學問者亦非異常別件物事也只是為父當慈為子當孝為臣當忠為夫婦當別為兄弟當友為少者當敬長為朋友當有信皆於日用動靜之間隨事各得其當而已非馳心玄妙希覬奇効者也但不學之人心地茅塞識見益昧故必須讀書窮理以明當行之路然後造詣得正而踐履得中矣今人不知學問在於日用而妄意高遠難行故

啓蒙篇 諺解

上有天上下有地下天地之間間有人焉有時有萬物時焉時日月星辰者是天之所係也是江海山岳者是地之所載也是父子君臣長幼夫婦朋友者是人之大倫也是
以東西南北是定天地之方是以青黃赤白黑是定物之色是以酸鹹辛甘苦是定物之味是以宮商角徵羽是定物之聲是以一二三四五六七八九十百千萬億是定物之數是

大正十年十月十日 印刷
大正十年十月十日 發行

廣昌書館
總發行所 廣昌書館
印刷所 廣昌書館

廣昌書館
發行所 廣昌書館
印刷所 廣昌書館



图21 啓蒙篇諺解

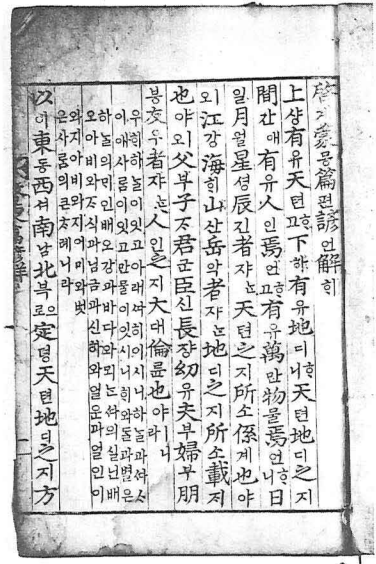


图22 啓蒙篇諺解



图23 明心宝鑑

台
 解後狂言醒時
 惡生於多怒
 善不得見時
 禍生於多貪
 右要命處
 過生於輕慢
 念！要在報日
 罪生於不仁
 心！常以過探時
 右欲誦心文八生
 忍一財之氣免百是度
 明心寶鑑抄上
 細卷篇
 子曰為善者天報之以福而不善者天報之以禍○漢昭烈將薨勅後主曰勿以惡小而為之勿以善小而為之○莊子曰一日不食箠諸患自皆起○太公曰見善如渴聞惡如馳○太公曰善事須貪惡事莫染○馬後曰
 經身竹葉猶不足一日行惡惡有竹葉○司
 讀馬溫公曰積金以道子孫未必子孫肥

图24 明心宝鑑抄



图25 懸吐具解校正增補 新無雙明心寶鑑



图26 古今歷代標題註釋十九史略通攷

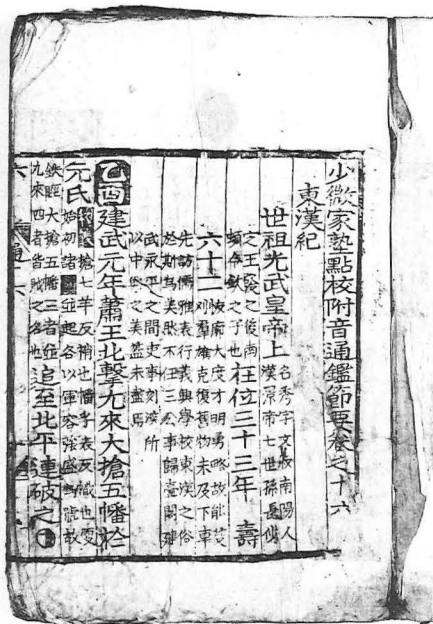


图27 少微家塾點校附音通鑑節要

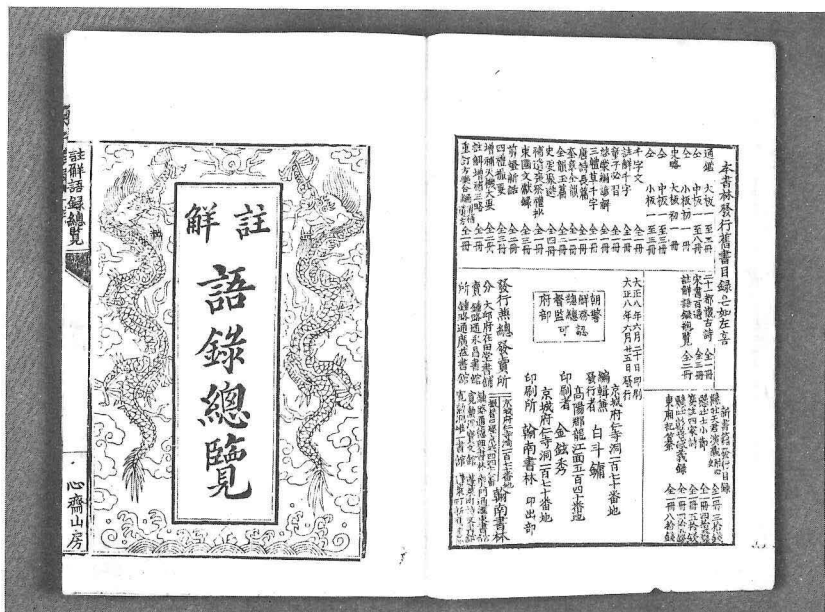


图28 註解語錄總覽

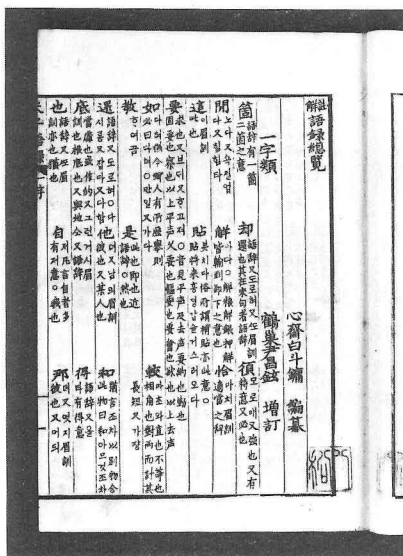


图29 註解語錄總覽

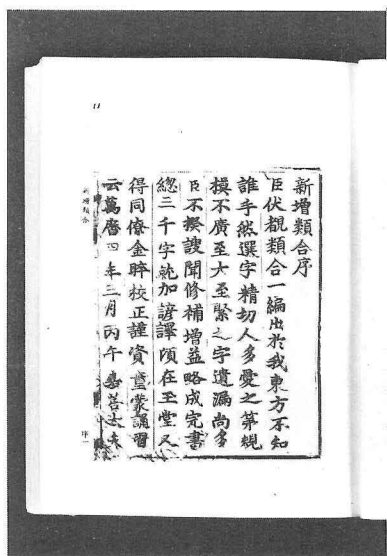


图30 新增類合

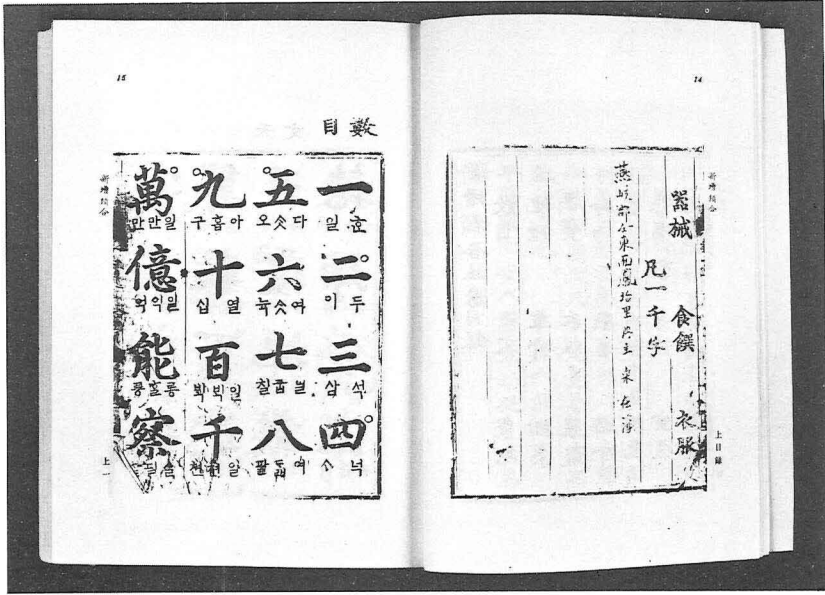


圖31 新增類合

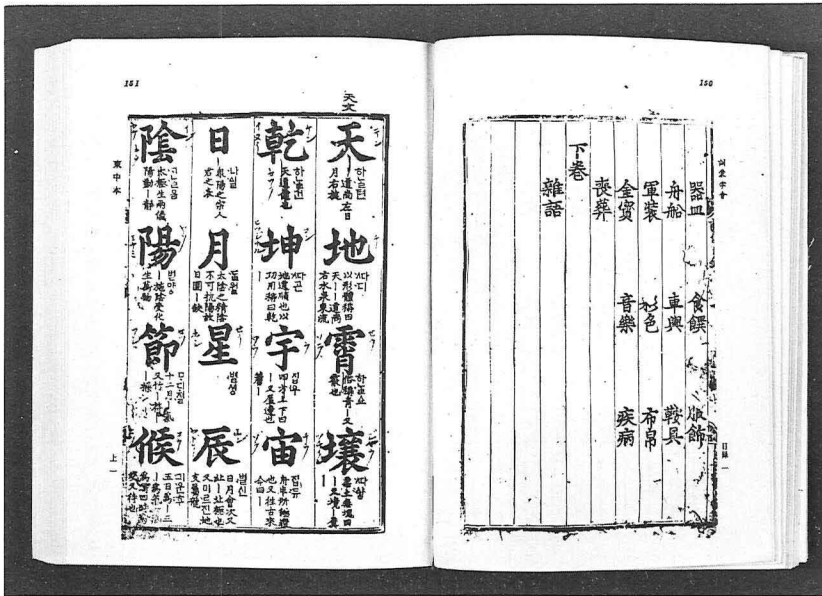


圖32 訓蒙字會

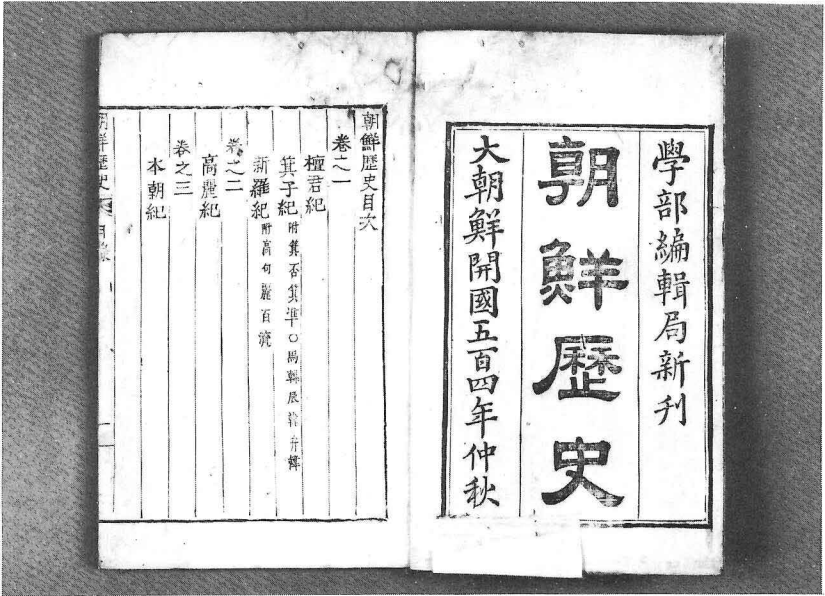


图33 朝鮮歷史

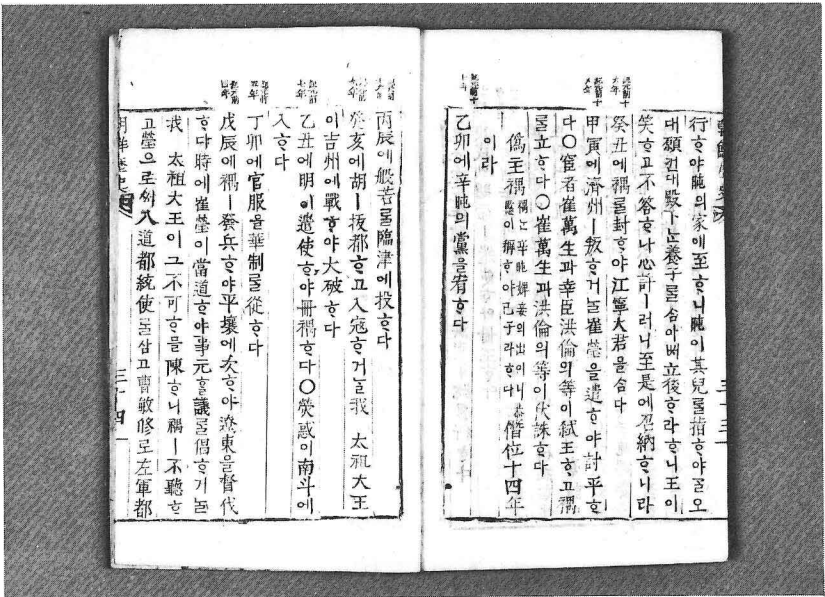


图34 朝鮮歷史

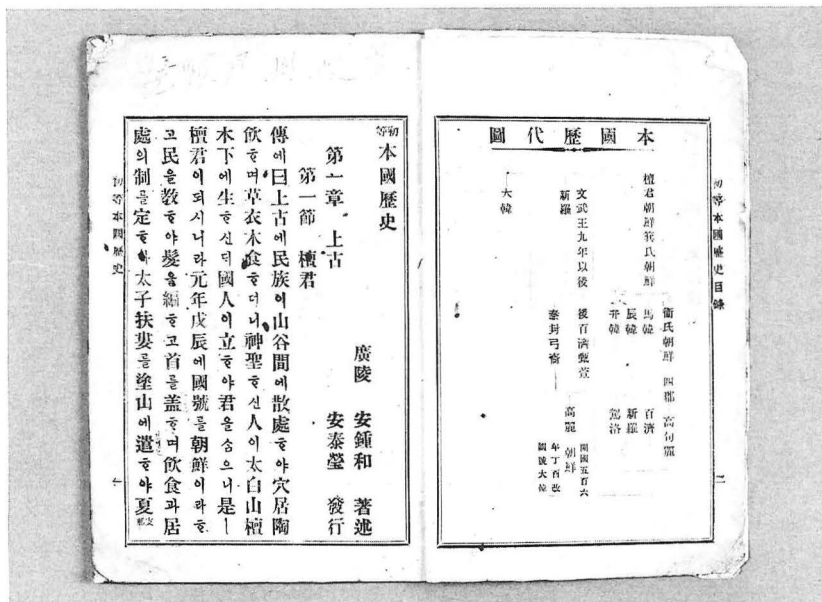


图35 初等本国歴史

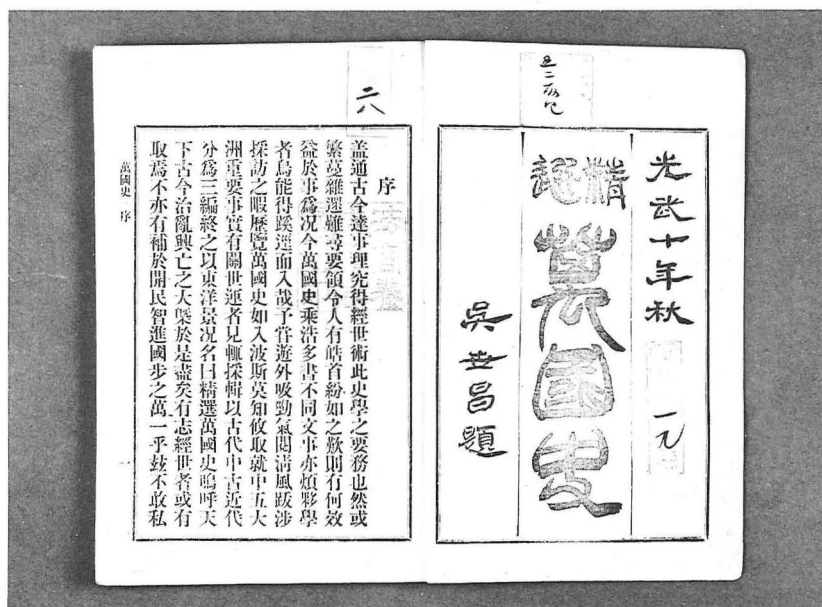


图36 精選万国史



图37 推句五言

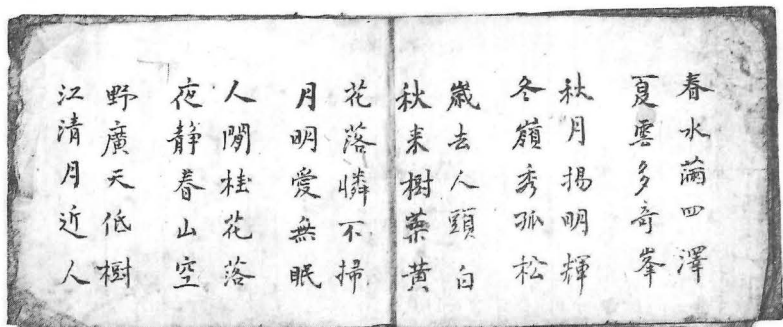


图38 推句五言

歲去人頭白
 秋來樹葉黃
 天地為父母
 日月似兄弟
 桃李千機錦
 江山一畫屏
 月為大將軍
 星作百萬師

图39 推句(外題)

俗人問 問爾何事棲岩山
 笑而不答心自閑
 桃花流水杳然去
 祇恐花地非人間

洞庭湖 洞庭西望楚江分
 水盡南天不見雲

蘇臺 舊苑荒臺楊柳新
 菱歌菱唱不勝春
 昔時歌舞樓臺處
 只有水風殘照在

採蓮曲 借山竊簪翠黛娥
 鏡水無風也自波

回鄉偶書 少小離家老大回
 鄉音無改鬢毛衰
 兒童相見不相識
 笑問客從何處來

送元二使 渭城朝雨浥輕塵
 客舍青青柳色新
 勸君更進一杯酒
 西出陽關無故人

送君 送君南浦淚如絲
 君向東州使北悲

龍山鷓鴣能言語
 猶教聞人教寄書
 為報故人憚惺盡
 如今不似洛陽時

图40 聯珠詩

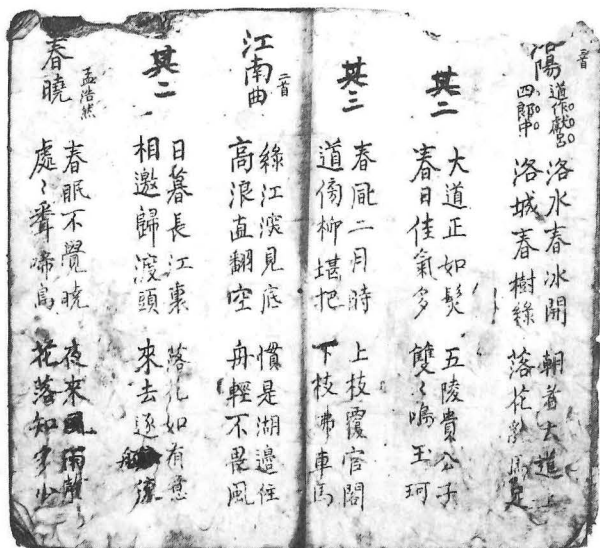


图41 唐音

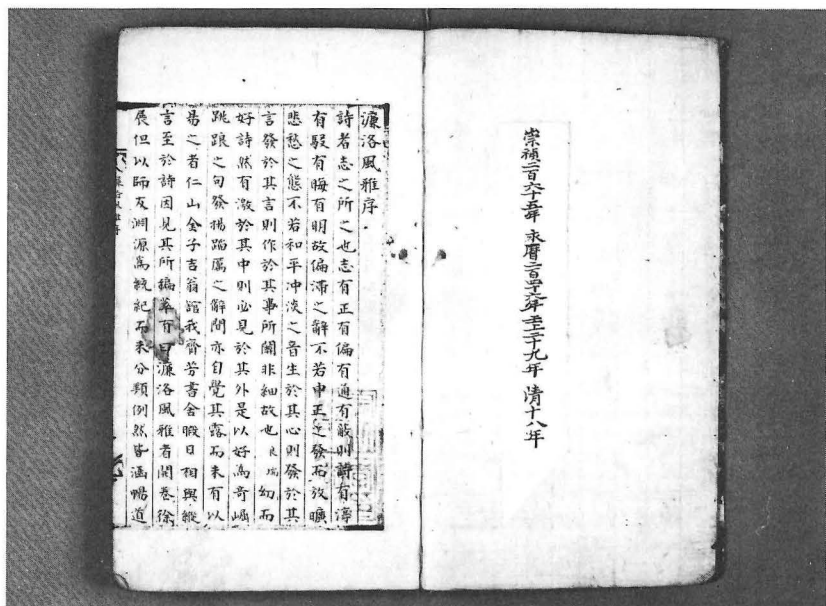


图42 濂洛風雅

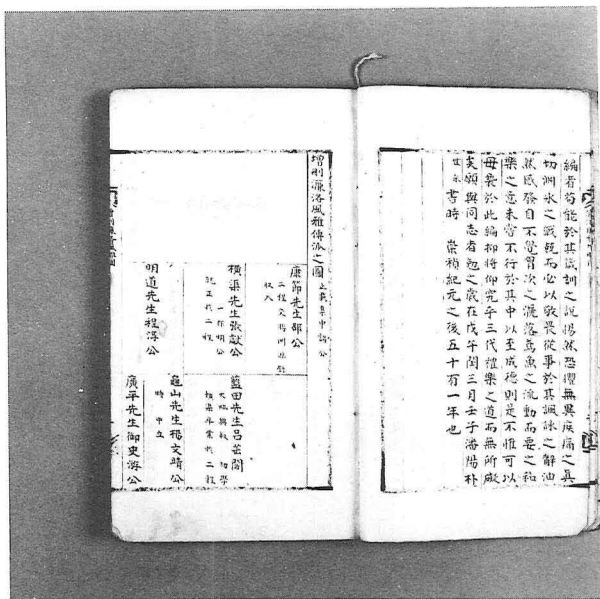


圖43 瀟洛風雅

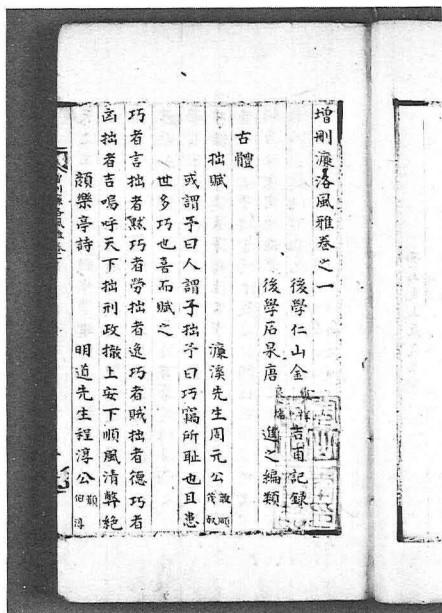


圖44 瀟洛風雅



图45 高峯先生文集

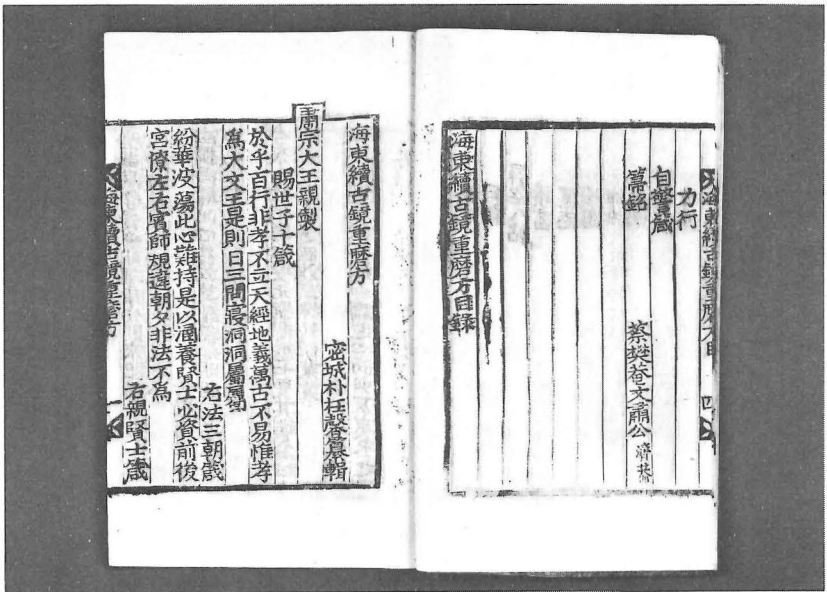


图46 海東續古鏡重磨方

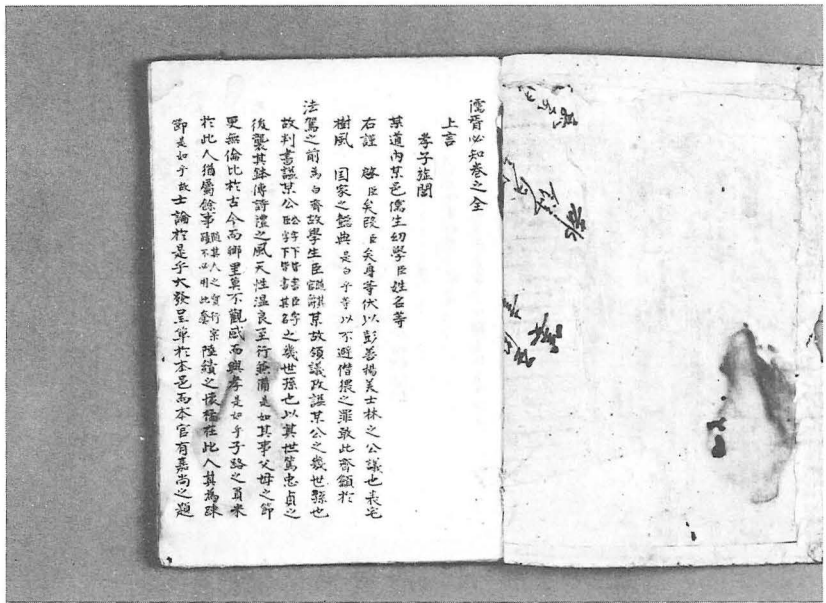


图47 儒者必知

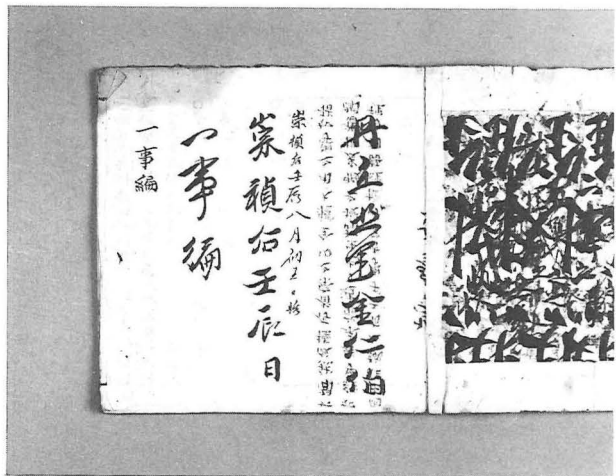


图48 一事編

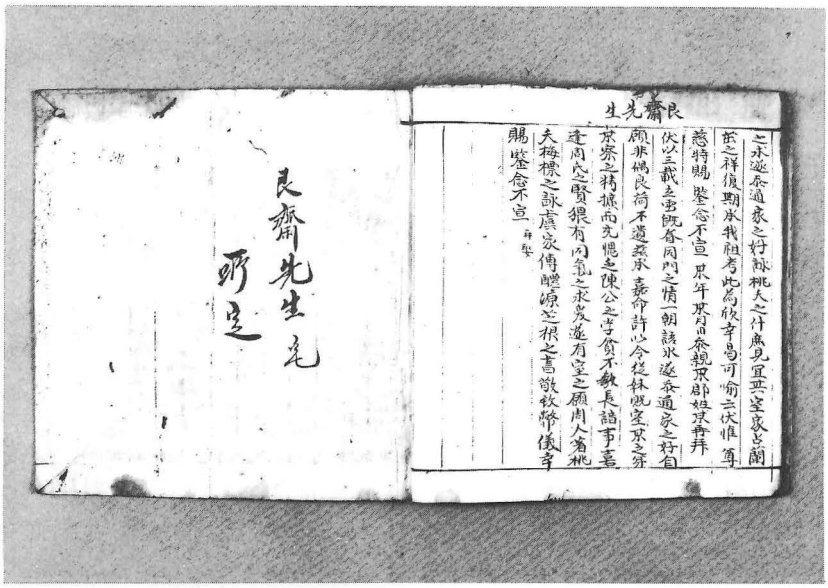


圖49 一事編

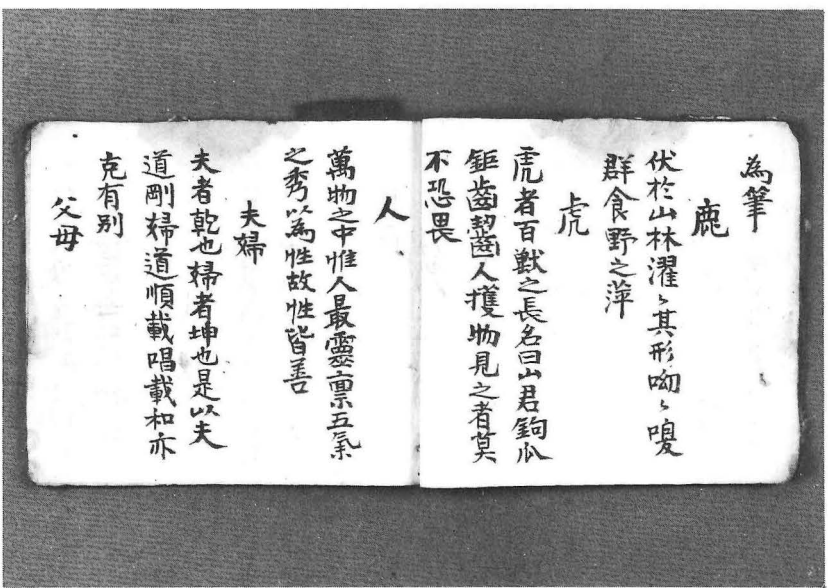


圖50 万物?

良齋先生
 之亦遜余通家之行詠桃夭之什庶見宜室宜家吉爾
 茲之祥復期承我祖考此為欣幸曷可喻云伏惟專
 慈特賜鑒念不宣 某年某月某親某親某親某拜
 伏以三載去逝既春同門之情一朝請狀遂春通家之好自
 願非偶良荷不遺茲承 嘉命許以今從林既室之好自
 京察之精誠而允愧是陳公之字負不敏長謫于嘉
 逢周之賢銀有內氣之求及遂有空之願周人者視
 夫梅標之詠庶家傳贈源之根之言敬敬幣儀幸
 賜鑒念不宣 拜

良齋先生 先生

所定

為筆

鹿

伏於山林濯其形吻之嗅

群食野之萍

虎

虎者百獸之長名曰山君鉤爪

鉅齒齧齒人獲物見之者莫

不畏

人

萬物之中惟人最靈稟五氣

之秀以為性故性皆善

夫婦

夫者乾也婦者坤也是以夫

道剛婦道順載唱載和亦

克有別

父母

目 次

総説	4
千字文類	6
童蒙先習・童蒙須知類	9
擊蒙要訣類	17
小学類	19
啓蒙篇類	24
明心宝鑑類	27
十九史略通攷・通鑑節要類	31
字書・韻書類	32
旧韓末学部編集教科書類	36
詩文類	41
その他	46
参考文献	51
書名索引	53

凡 例

1. 漢字で常用漢字のあるものは、原則としてこれを使用した。
2. 類ごとに、解説の末尾に同類の朝鮮本を所蔵する日本の図書館名を、下記の略号で示した。

国立国会図書館（国会）

東洋文庫（東洋）

内閣文庫（内閣）

静嘉堂文庫（静嘉堂）

日比谷図書館（日比谷）（現東京都立中央図書館）

尊経閣文庫（尊経閣）

大東急記念文庫（東急）

三康図書館（三康）

足利学校遺跡図書館（足利）

宮城県立図書館（宮城）

蓬左文庫（蓬左）

天理図書館（天理）

大阪府立図書館（大阪）

3. 類ごとの解説のあとに目録をかかげた。
4. 書名は内題を主に、外題その他の別名は（ ）内に記し、写真は刊年にかかわらず同類書のあとにかかげた。
5. 目録は一書ごとに下記の順に記載した。
 - ① 撰者・編著者・校注者・校閲者。なお明記されていないが、推定可能な者は〔 〕で示した。
 - ② 刊行（発行）年。序・跋・刊記・本文および他書により、明確なものを記した。朝鮮王年代・中国年号・日本年号には西暦を付した。
 - ③ 刊行地および発行所。

- ④ 巻数, 版種, 冊の大きさ(縦×横をcmで表示), 匡郭(本文の四周の枠の大きさ表示は同前), 半丁行数, 1行字数, 版心・魚尾等。
- ⑤ その他の注記事項。巻頭に凶版をかかげた書は末尾に凶番号を付した。
6. 参考文献は日本で刊行されたものに限った。
7. 索引はすべての書名をとりあげ, 漢字は50音・筆画順, ハングルは가나다順に配列した。
8. 収載した129点の請求記号は, 「K372.21-W46 中央」で統一した。

以下の分類目録は, このたび寄贈いただいた文献を便宜的に分類し, また別記の参考文献などをたよりにして, 門外漢が解説を短期間にまとめたため, 多くの誤謬があると思う。おことわりするとともに, 今後それぞれ専門分野の研究者によって綿密な検討が加えられ, 修正されることを期待したい。

総 説

朝鮮において初学入門教育に使用された教科書は、まず中国伝来の『明心宝鑑』が、ついでその朝鮮化したものとして李珥（1536～1584、字・叔献、号・栗谷）撰『擊蒙要訣』（1577年成立）が行なわれ、その後独自の意識を蔵した独創的な初学入門書である朴世茂（1487～1564、号・道遙堂）撰『童蒙先習』（1541年成立）が、17世紀になってから全国的に普及発達してきた書堂（seo-dang、各里洞において主として漢文の素読および習字を授ける民間私塾）教育の進展と相まって、全国的に流布し、真価が認められ、併合後は朝鮮総督府の隠微な禁圧のもとでも監視の目をくぐって、各地で各種の刊本が発刊され、内容は同書をほとんど踏襲しながら、書名のみを『幼学先習』・『啓蒙訓篇』・『訓蒙輯要』・『童文先習』・『童子必習』・『童蒙学』・『童蒙初学』・『童蒙先学』などと変え、広く使用されていた。なお『啓蒙篇』も行なわれたようである。

一方、朱子の『小学』が近世朝鮮の正規教育の初発とされていたことは、宣祖5（1572）年王命によって李珥が撰した『学校模範』の第3条にみえるが、それに倣いながら内容の嘉言・善行の事例を朝鮮に求め、独自意識を具体的に表明している『海東続小学』を朴在馨（1838～1910、号・進溪）が1882年に撰してから、これが嶺南地方を中心に朱子の『小学』に代った。

日本は併合（1910年）後、朝鮮に組織的な植民地教育の体系を樹立・整備したが、とくに教育内容の統制については非常な苦心のもとに万全の支配体制をととのえた。初等教育の分野では日本内地と同様に国定教科書の制をとり、朝鮮総督府が教科書を編集・発行し、一律にこれを使用させた。いろいろな理由から特例的な温存政策をとった在来の私的初等教育施設である書堂についてさえも、その使用教科書については強力にこれを規制する措置をとった。ところが、そのような条件下でも一般朝鮮人の間に広く普及流布した在来系教科書類は、かなり多かったようである。

正規の公・私立学校で、これらの諸教科書本を使用できなかったばかりでなく、私設学術講習会や書堂など非正規の初等教育施設においても、『千字文』・『類合』・『啓蒙篇』・『撃蒙要訣』・『小学』・『明心宝鑑』など17種を除き、表立って使用できなかった。それにもかかわらず書堂その他の民間私設の教育施設や家庭内教育においては、これら在来系教科書本が広く使用されていた。近代的学校に教えられる各種学校においても、当局の監督の目をくぐって、とくに『童蒙先習』の李氏朝鮮王朝史（以下李朝史と略す）の部分などを教授していた形跡がある。このことは当時の当局側日本人にはあまり留意されることなく、皇民化教育進展の呼び声のなかで等閑視され、奇妙な表現ではあるが、公然かつ暗々裡に広く実行されていた。当時の朝鮮人の間では、このことは余りにも明白な当然の日常事として暗黙の了解事項となっており、それだけにまた深くかつ幅広い影響力をもっていた。解放後の南北朝鮮において、教育内容とくに初等教育のそれが一挙に切りかえられることができた事実が、このことを証明している。教育内容の普遍的な国民的地盤なしには、このようなことは起りえない。

このように余りにもありふれたものであるために、かえてこの種の諸本の散逸は甚しく、今日それを入手することがきわめて困難になっている。さらに韓国では古本屋の組織の未発達に加え、祖父とか父とか兄とか同一家族内での長上者の使用した書物として大切に家蔵され、門外不出となっているという封建的美風が重なり、これら諸本の収集は難事業になっている。

在来系流布教科書本には写本・木版本・活字本（近代活字および凸版印刷）があり、なかには朝鮮銅活字印刷ではないかとみられるものもある。また諺解本・懸吐本（送り仮名を付したもの）・図解本などの別があり、懸吐にしても吏読によるもの、ハングルによるもの、略符号によるものなどの別があり、さらに刊年による別、紙質による別、刊行地による別、はては書体による別など、さまざまなちがいがあがる。また「吾東」すなわち朝鮮独創のもの、中国伝来のもの、およびそれを底本にしながらも、その後「吾東」的変貌をとげ、独自の発展形態を現出しているものがある。

千字文類

中国から伝来した周興嗣撰『千字文』が、朝鮮ではハングルの音・訓を付され、初学入門書として広く行なわれ、各種の版本がある。『古鮮冊譜』には36点もかかげられている。朝鮮の『諺解千字文』は一般にひとつひとつの漢字の下に、右側に訓、左側に音をハングルで付している。ところが慶尙北道安康邑にある玉山書院の李彦迪（1491～1553、号・晦斎。中宗朝の賢臣、その主理説は李退溪に影響を与えた）旧宅に蔵されていた『千字文』は、彼自筆の子弟教授用で、30cm×15cmばかりの折本で、文字の配列方式は坊間流布のものと同じであるが、ハングルによる音・訓の位置が異っている。『千字文』は総督府時代にも漢字学習のため、書堂で使用することが認められていたが、膨大な量でしかも難易度がさまざまな漢字を、初学入門教育においてどの程度どの範囲まで教えるかという問題があった。すでに朴趾源（1737～1805、号・燕巖、北学派の実学思想家）は「天地玄黄 宇宙洪荒」という配列が、類から類へと飛躍しすぎる文字配列になっているため、初学児童の頭を混乱させてしまうと、痛烈に批判し、千字不可読説を唱えている（『談叢外記』にみえる）。朝鮮では『千字文』を基礎的参考書としながらも、別の独自の考え方で漢字学習課程の範囲・配列の設定を行なうことが試みられ、独特のものを生みだしている。それが『類合』や『訓蒙字会』などである。

（国会・東洋・内閣・日比谷・尊経閣・東急・三康・天理・宮内庁書陵部）

漢日鮮作文千字 全

- ① 高裕相著
- ② 大正12（1923）年 ③ 京城 滙東書館
- ④ 1冊（32丁） 活字本 23×16
- ⑤ 凡例によれば、初等科作文教科用に適合するように編成し、一千字を限って四字ごとに一句とし、字の左右に中国音・日本音訓（片仮名）を付し、字

の下に朝鮮文で訳解を施し、漢日鮮三邦人士に通曉自習するようにしたという。巻頭に音訓自習法を収め、文字の配列は「天高地濶 日明月白 乾坤開闢 云云」と『類合』を模している。併合後に日本語学習の実際的必要に迫られ、伝統的な『千字文』や『類合』を基幹とし、それに日本語を脇役に配したものである。昭和に入ると、植民地的な日本の教育が普及し、この程度の日本語は朝鮮人自身にとっても大体自家菜籠中のものとなって行くが、その段階では、この種の書は恐らく辞典形態に移行したのではなかろうか。

千字文 (1)

- ① 周興嗣撰
- ② 1973年 ③ ソウル 東洋学研究所 (東洋学叢書 第3輯)
- ④ 1冊 影印本 21×16
- ⑤ 『光州千字文』・『石峰千字文』・『註解千字文』の3種の影印を収め、解題(李基文)・索引(国語・漢字)を付す。『光州千字文』は宣祖8(万曆3, 1575)年に光州で刊行され、天下の孤本とされる。『石峰千字文』は万曆11(1583)年正月、韓濩(号・石峯)の書で名筆とされる。『註解千字文』は崇禎百七十七(1804)年秋の刊行で、洪泰運の篆書が付されている。

千字文

- ① 周興嗣撰 学古堂書
- ④ 1冊(32丁) 木版本 31×20 四周単辺 21×17 無界 4行4字 上黒魚尾
- ⑤ 积音表記本。各文字の右肩に中国音韻を、その下に朝鮮音を付す。(図12参照)

千字文

- ④ 1冊(30丁) 写本 22×21 無郭無界 4行4字
- ⑤ 後表紙に「丙戌四月」・「최석진」と記す。「海鹹河淡」以前には音符を付

す部分があり、「菜重芥薑」は鉛筆書き,「工嘖研笑」に終り,以下欠。

千字文

- ④ 1冊(40丁) 写本 21×21 無郭無界 4行4字
- ⑤ 扉に「主人慶明洙」・「檀紀四二八九(1956)年」・「三月八日」と記し,巻末に「戊辰仲春念二日 蓮洞齋書」とあり,『四字小学』を付す。

註解千字文

- ④ 1冊(42丁) 写本 29×19 無郭無界 3行4字
- ⑤ 表紙に「丙子四月七日 袈」と記す。『千字文』(1)所収の『註解千字文』の写本。落丁・乱丁があり,重複もある。(図9参照)

千字文

- ④ 1冊(16丁) 写本 24×16 無郭無界 4行4字
- ⑤ 表紙に「丁巳元月」と記し,「馭轂振纓」までを収め,以下欠。

新千字篇

- ④ 1冊(22丁) 写本 19×18 無郭無界 6行4字
- ⑤ 扉に「庚子春分」・「冊主鄭永哲藏」と記し,本文に「一二三四 五六七八 九十百千 万億之数 日月火水 木金土星 古往今来 回轉無窮 上下中間 天地人物 大小明暗 苦樂不同 前後左右 南北東西云」とあり,『千字文』と異り,実用的な四字句を並べている。1983年全州にて入手。

訓蒙日鮮二千字

- ④ 1冊(42丁) 活字本 25×18
- ⑤ 表紙に「冊主李東昇」と記す。巻首1頁は写本,巻尾1丁は欠。綴紐・紙・刷りからみて併合後のものであろう。下欄にハングル,その下に日本語の片仮名で音訓が付してある。「壹貳參四……兆京」に始まり,「上下左右 東西

南北「春夏秋冬」とつづき、同一類をたどる配列になっており、『類合』を模したもののようである。綴紐のとじが五針眼訂法になっているので、朝鮮側で作成されたものである。

蒙学二千字（外題 二千字）

- ④ 1冊（49丁） 木版本 25×18 四周双辺 18×15 有界 5行4字 上
花紋魚尾
- ⑤ 积音表記本。前後表紙は欠、後補。巻首に写本2丁が付され、それには数字「一……十百千」について「甲乙丙丁 日月山川 水火木石 上下左右」以下の句が並ぶ。1983年全州にて入手。（図10・11参照）

二千字（外題）

- ④ 1冊（21丁） 写本 17×22 無郭無界 6行4字
- ⑤ 积音表記本。破損あり。表紙に「乙酉十二月十日 陳永燮」と記す。『蒙学二千字』と異同あり、「父母子女 兄弟姉妹」を「父母夫婦 男女兄弟」などとする。1983年全州にて入手。

童蒙先習・童蒙須知類

朴世茂（1487～1564、号・逍遙堂）は1531年文科に及第し、承文院に起用され、諸官を歴任したが、早くから『童蒙先習』を著わして子弟を教育した。彼の手書本の末尾に「辛丑仲秋禾日逍遙子書」とあり、落款が押されているので、中宗36（1541）年8月に清書される以前にすでにつくられていたと推測できる。李朝における書院隆盛の発端となった紹修書院賜額が1550年であることを考えると、郷校の衰微に代り、在郷士林の私的教育施設としての書院の勃興と、『童蒙先習』の成立との間の歴史的な相互機能的関係を留意すべきであろう。『童蒙先習』の成立によって、中流階層の子弟でも容易に当時の全学問の最少必要なものを学習しうることとなった。国学である郷校に対する書院なら

びに書院による在郷士林の地方教育独占もしくは統御への志向と、本書の成立による客観的な初学入門教育方法の具体化・一般化とが、この後の李朝の教育をいりどって行くのである。

その内容は「経史之略」を兼ねた書といわれ、まず五倫を説き、次に儒学思想の「総論」を述べ、ついで「歴代要義」すなわち中国史・朝鮮史（檀君朝鮮から李朝まで）を記している。また吏読による吐（漢字音による送り仮名）を割注として入れている。

その後も複製重版されたが、併合後も当局の監督の目を避けるため苦心の改変を加えて刊行され、現在でも地方では広く読まれているという。この間刊年により併合前・併合後大正初期（とくに三・一独立運動前）・併合後昭和中期（満州事変前後）・解放後の4時期に分け、全体的な傾向をうかがうことにしよう。

総督府が書堂の監督取締りのために発した訓令によって排除されたため、『童蒙先習』の書名を使用しないように腐心し、学習者の発達段階を考慮し、それに適合させるよう、学習の容易化にくふうを加えている。また記述内容を部分的に増改訂している。すなわち①当局から民族独立思想を鼓吹するものとして弾圧されないように、併合に直結する李朝史を削除し、②弾圧を招来する恐れのない最少限度まで、民族文化の固有の発展を自覚させるような部分を残り、児童の感奮興起をうながそうとしており、③現在の政治にかかわりがほとんどなく、弾圧の恐れのない古代史の部分に修正を加え、漢の武帝の衛氏朝鮮「討滅」を「侵略」としたり、漢の四郡支配を削ったり、唐の百濟・高句麗討滅を削るかあるいは新羅の統一に書きかえたりしている。すなわち自民族の歴史に対する主体的自覚を徐々にあらわにしてきている。④ソウルのほか水原・全州・永川・安城など、地方での出版がかなり広範囲に行なわれたようである。『古鮮冊譜』には21点かかげられている。

（国会・東洋・内閣・静嘉堂・尊経閣・蓬左・宮内庁書陵部）

『童蒙須知』の撰者・成立年は不詳であるが、『古鮮冊譜』は6点を録し、

『国朝宝鑑』の記事を引いて『朱子童蒙須知』としており、廬守慎（1515～1590、号・蕪齋）の注本や柳成竜（1542～1607、号・西厓）の注本があると記している。その成立はかなり古いかと思われ、あるいは中国からの伝来本かも知れない。中宗（在位1506～1544）はこの書によって王子を教育させたと伝えられている。年少者の日常卑近な生活上の心得を、衣服冠履・語言歩趨・灑掃涓潔・読書写文字・雑細事宜の5篇に分って記した、簡にして要をえた書である。

（東洋・宮城）

童蒙先習諺解

- ① 〔朴世茂著〕
- ② 中宗朝
- ④ 1冊（32丁） 木版本（電子複写） 34×23 四周双辺 26×19 有界
7行15字 上下花紋魚尾
- ⑤ ソウル大学奎章閣蔵本。高麗史の条に「王瑤君たらず」（ハングル使用）と記す。瑤は高麗最後の恭讓王。

童蒙先習

- ① 朴世茂著
- ② 己卯（1699年？）
- ④ 1冊（22丁） 木版本（電子複写） 36×23 四周双辺 25×11 有界
7行15字 上下細花紋魚尾
- ⑤ 巻首に「御製童蒙先習序」、巻尾に「崇禎紀元之商横闡茂（庚戌、1670）陽月日恩津宋時烈謹跋」を付す。標題紙に「己卯新刊」・「春坊蔵板」と記す。ソウル大学奎章閣蔵本。吐は吏読。序の御・皇・我・繼・至の字は提頭。

童学初読

- ④ 1冊(10丁) 写本(電子複写) 35×23 四周双辺 有界 6行10字
- ⑤ ソウル大学奎章閣蔵本。『増補文献備考』にも掲記されているが、字典と教訓書とを折衷したもので、天・地・日・月・星・雲・霧・風・露・霜・雪・山・禽獸・麟から人倫にいたるまでの解説書。民の生業を士・農・工・商に分っているのが注目される。

童蒙先習

- ④ 1冊(17丁) 木版本 28×19 四周单辺 22×18 有界 7行15字 上下花紋魚尾
- ⑤ 吐は吏読。序・跋なく、高麗史の条に「恭讓伊不君^{為也}」と記す。恭讓は高麗最後の王。

童蒙先習

- ④ 1冊(17丁) 木版本 30×20 四周单辺 23×18 有界 7行15字 上花紋魚尾
- ⑤ 吐は吏読。ところどころ朱でハンダルの書入れあり。序・跋なく、高麗史の条に「恭讓伊不君^{為也}」と記す。(図13参照)

童蒙初学

- ④ 1冊(17丁) 木版本 29×19 四周单辺 23×18 有界 7行16字 上下花紋魚尾
- ⑤ 前表紙欠、破損あり。吐は吏読。序・跋なく、高麗史の条に「恭讓伊不君^{為也}」と記す。そのあと「歷年伊四百七十五年^{是尼羅}」につづいて「用天之道云云」と11行の挿入があり、「嗟爾小子隱」と末行につづく。

幼蒙先習

- ④ 1冊(16丁) 木版本 30×21 四周单辺 22×17 有界 7行16字 上

黒魚尾

- ⑤ 布表紙。吐は吏読。序・跋はなく、高麗史の条に「恭讓伊不君^義」とあり、「歴年伊四百七十五年^{尼於羅} 茲豈非箕子之遺化耶^畢」とつづく。総督府の監視から逃れるために書名の「童」を「幼」に改め、末尾の李朝史の部分を削除し、高麗史からいきなり結語の「茲豈云云」につないだため、最後の頁の行きどまりがくるい、「茲豈云云」以下の感奮興起をうながす結びの文と、最末行の上端に掲記すべき「幼蒙先習終」を無理につめこんでいる。さらに板の寸法や書体の異なるいろいろな板を寄せ集めて編集したようである。(図14参照)

童蒙学（版心書名）

- ④ 1冊 木版本 26×19 四周単辺 22×17 有界 9行17字 上黒魚尾
- ⑤ 諺吐、諺解。前後表紙欠、落丁あり。『幼蒙先習』が残した結語部分の範囲を少し拡大し、李朝の文化隆昌の叙述部分を簡略化して、加えている。すなわち「我国」を「朝鮮」に変え、「泰封諸將 立麗祖 為王 国号 高麗 歴年 四百七十五年 朝鮮 雖僻在海隅 壤地褊少 人倫明於上 教化行於下 茲豈非箕子之遺化耶 嗟爾小子 宜觀感而興起哉」(ハングルの吐は空格として省略)とし、朝鮮が人倫・教化ともに優れていると述べている。奥付に「官許」とあるので、当時総督府もそこまでやかましく言わなくなっていたのか、あるいは大陸政策上言えなくなっていたのであろうか。

童蒙先習

- ④ 1冊(11丁) 写本 20×21 無郭無界 8行16字
- ⑤ 吐はハングル(略符号)。高麗史の条に「恭讓不君」と記し、李朝史を収載す。1983年全州にて入手。

童蒙先習

- ④ 1冊(14丁) 写本 21×21 無郭無界 10行12字

- ⑤ 表紙に「丙戌四月初六日」,扉に「冊主人」・「姜鎬英」・「全北鎮安郡銅郷面新松里」・「古(舞)亭」・「書堂」と記し,吐はハングル。高麗史の条に「恭讓不君」とし,李朝史を収載す。1983年全州にて入手。

懸吐具解童蒙先習 (外題 童子先習 単)

- ④ 1冊(16頁) オフセット(写本) 27×19
- ⑤ 表紙に「金炅洙蔵」と記す。吐・解ともハングル。「泰封諸將 立麗祖 為王 国号 高麗 歴年 四百七十五年 朝鮮 雖僻在海隅」(ハングルの吐は空格として省略)とあり,卷末に孔子三計図・荘子・礼記(以上各1条)・太公(8条)日を付す(2頁)。1983年全州にて入手。

童蒙先習

- ④ 1冊(12丁) 写本 17×17 無郭無界 10行13字
- ⑤ 白文。高麗史の条に「王瑤不君」と記し,「唐高宗滅百濟高句麗分其地置都督府以劉仁源薛仁貴留鎮撫之」の記述がある。

童子習

- ① 朴致維梓
- ④ 1冊(41丁) 木版本 27×18 四周単辺 18×14 有界 10行21字 上花紋魚尾
- ⑤ 卷首に「永樂二年歳在甲申至前三日安成周子治序」があり,卷1の卷頭に「田以采 朴致維梓」とある。諺吐,破損あり。卷1は事親・孝感・事長を,卷2は友愛灑掃・言語・飲食・衣服・威儀・扱類・向学・知戒・礼賓・觀礼・隆師・交友・事君を収め,真宗皇帝・仁宗皇帝・司馬温公・柳屯田・王荊公・白樂天・朱文公の勸学文,韓退之の「符読書城南」を付す。(図16参照)(宮内庁書陵部)

諺解画像童文先習 (外題 童文先習)

- ① 朴永鎮編修 権世鎮校正

- ② 大正4(1915)年 ③ 京城 天寶堂
 ④ 1冊(19丁) 木版本 26×19 四周双辺 21×17 有界 8行16字 上黒魚尾
 ⑤ 五倫を叙述した部分にそれぞれ1図をかかぐ。眉上に注釈があり、吐はハングル、諺解を施す。奥付に「官許」とある。中国史を簡略化し、朝鮮史・結語を欠き、別の教訓を加う。

諺吐幼文初習(題簽 諺吐幼文初習)

- ① 盧益亨編輯
 ② 大正6(1917)年 ③ 京城 博文書館
 ④ 1冊(16丁) 木版本 27×20 四周单辺 22×18 有界 7行15字 上黒魚尾
 ⑤ 「恭讓王 不君 遂至於亡 歷年 四百七十五年」(ハングルの吐は空格として省略)で終り、以下欠。

諺解画像童蒙初学

- ① 朴永鎮編修 権世鎮校正
 ② 昭和7(1932)年 ③ 全州郡 梁門房
 ④ 1冊(19丁) オフセット(木版本) 25×19 四周双辺 21×18 有界 8行16字 上黒魚尾
 ⑤ 1915年刊の『諺解画像童文先習』の板を使用しているが、内題中の「童」だけを残し、「文先習」を「蒙初学」に変え、『童蒙先習』の名に近づけようとしている。書体は異り、新たにはめこんだ跡が歴然としている。諺解を付し、挿画を加え、眉上に重要な語句や固有名詞の解説をかかげ、学習効果をあげるようくふうしている。しかし「東方初無君長」に始まる檀君以来の朝鮮史と結語とを削除し、中国史も簡略化して宋代にとどめ、結語の教訓の内容を民族的なものから道学的なものへと入れかえている。したがって学習用書として形態上では前進しているが、思想内容上では外観的にむしろ後退し

ており、満州事変前後から日本の帝国主義の変貌があり、朝鮮民衆が敏感にそれをかぎとり、自覚を一段と進めたといえよう。

童蒙先習（外題 諺吐童蒙先習）

- ① 金益培著作
- ② 昭和7（1932）年 ③ 京城 宇宙書林
- ④ 1冊（13丁） 木版本 26×19 四周単辺 24×18 有界 8行16字 上黒魚尾
- ⑤ 国史記述の自主性を明確にしたこの系統の書のうち、もっとも発展した形に整えられている。末尾は『諺解童蒙学』と同じ調整をしているが、諺解はなく、ハングルの吐のつけ方が若干異っている。

童蒙訓（外題 童蒙先学）

- ① 申泰三編輯
- ② 昭和10（1935）年 ③ 京城 世昌書館
- ④ 1冊（11丁） オフセット（写本） 26×19 四周単辺 22×18 有界 12行20字 上花紋魚尾
- ⑤ 諺吐・諺解あり、奥付に片仮名の50音をかかげ、対応する音をハングルで示し、「朝鮮総督府許可」とある。（図15参照）

童蒙訓（外題 童蒙先学）

- ① 申泰三編輯
- ② 昭和10（1935）年 ③ 京城 世昌書館
- ④ 1冊（11丁） オフセット（写本） 26×19 四周単辺 22×18 有界 12行20字 上花紋魚尾
- ⑤ 前掲書と同じ。

童蒙必習

- ① 金振福編輯
- ② 1946年 ③ 漢城 中央出版社
- ④ 1冊 オフセット(木版本) 26×19 10行17字
- ⑤ 高麗史の条は「国号 高麗 歴年 四百七十五年」(ハングルの吐は空格として省略)とし、「朝鮮 雖僻在海隅」につづく。末尾は欠。

童蒙須知

- ④ 1冊(31丁) 写本(電子複写) 17×25
- ⑤ ソウル大学奎章閣蔵本。細字で吏読の吐および割注を付す。はじめに撰述の要旨を記し、修身治心や事親接物および窮理尽性の要点は聖賢の典訓に明示されており、順次それに曉達して行けばよいので、本書には重複してそれを記さないと述べている。

童蒙須知

- ④ 1冊 写本 25×20 無郭無界 10行18字
- ⑤ 『童蒙須知』が5丁、『訓子従学帖』4丁を付す。吐はなく、表紙に「童蒙須知 全」と外題を手書し、その右に「庚申冬修于温知堂」とある。併合後の庚申の年は大正9(1920)年、その前は哲宗11(1860)年である。

撃蒙要訣類

『古鮮冊譜』には和刻本を含め20点が録されている。李珥(1536~1584,号・栗谷)の撰。『栗谷全書』に収載の「栗谷年譜」によると、丁丑(宣祖10年,万曆5年,1577年)12月に成立し、諸道の郷校に賜わったという。『明心宝鑑』の朝鮮化したものといわれ、初学者のために作られたものであるが、『童蒙先習』・『啓蒙篇』・『童蒙須知』に比し、その文章の程度が高く、8~9歳の児童の能力から考えると難解であろう。上巻は立志・革旧習・持身・読書・事親・

喪制・祭礼・居家・接人・処世の10篇につづいて祠堂之図・正寝時祭之図・每位設饌之図をかかげ、下巻は出入儀・参礼儀・薦献儀・告事儀・時祭儀・忌祭儀・墓祭儀・喪服中行祭を記す『祭儀抄』を収める。なお三図ならびに『祭儀抄』を欠くものもある。日本でも万治元（1658）年に京都で刊行されている。

（東洋・内閣・尊経閣・天理・大阪）

撃蒙要訣

① 李珥著

④ 1冊（31丁） 写本 28×20 四周単辺（第4丁まで、第11丁） 無界
10行23字 注双行

⑤ 表紙に「戊子七月十三日袈」と記し、一部に諺吐（略符号）あり。『祭儀抄』（喪服中行祭を欠く。10丁）に割注がある。

撃蒙要訣

① 李珥著

④ 1冊（22丁） 写本 25×19 無郭無界 10行20字 注双行

⑤ 前表紙は破損し、後表紙はない。巻頭の序文に重複があり、句読点を付し、一部に諺吐がある。『祭儀抄』は出入・参礼のみで、薦献以下を欠く。

撃蒙要訣

① 李珥著

④ 1冊（21丁） 活字本 31×20 四周単辺 24×16 無界 10行20字 注
双行 上黒魚尾

⑤ 『祭儀抄』を欠く。（図18参照）

撃蒙要訣

① 〔李珥著〕

④ 1冊（44丁） 木版本 30×20 四周双辺 20×16 有界 9行18字 注

双行 上下花紋魚尾

- ⑤ 蔵書印あり。五針眼訂法。板木は磨滅しているようで、かなり古びており、『祭儀抄』（17丁、祭儀図を付す）を収む。後表紙に『史要聚選』巻之八の第二十（丁）を裏返して貼付している。（図19参照）

撃蒙要訣

- ① 李珥著 権五成編輯
 ② 昭和3（1928）年 ③ 江陵郡
 ④ 1冊（36丁） オフセット（手稿本） 27×19 四周単辺 22×16 有界
 8行18字
 ⑤ 正祖12（1788）年初夏の日付の入っている正祖王御製の「題栗谷手草撃蒙要訣」（直提学李秉模奉教謹書）が巻頭にあり、李栗谷の序・本文とつづくが、『祭儀抄』を欠く。巻尾に「烏竹軒重修後跋」（権五成）がある。烏竹軒は李栗谷の母で女流画家の申師任堂（1504～1551）夢竜の室である。（図17参照）

小 学 類

朝鮮には「見蛛思朱」（くもを見ても朱子を思う）ということばがあるほど、朱子学は徹底して浸透していた。その朱子が1187年に門人劉子澄に編述させた『小学』が、早くから朝鮮でも広く読まれ、各種の『小学』類が『古鮮冊譜』に録されている。李朝の第3代太宗（在位1400～1418）の7（1407）年権近（1352～1409、号・陽村）の上進した勸学事目に小学書を先講の書と定めており、太宗12（1412）年に編纂された『統六典』には「八歳以上皆赴学堂、教之以小学之道」とあり、『小学』を読了することが「大学之道」に入る必須の前提とされている。また翌年6月に小学教育の振興が議されたが、そのとき「一依古者人生八歳、王公以下至於庶人子弟、皆入小学之法、自一品以下至庶人子弟、皆入部学、始教小学之書」（『太宗実録』巻25）といわれている。李朝では

原則として建国初期のこのような方針によって小学書教育が行なわれたが、その実施の状態はさまざまな変遷をたどっており、それがそのまま李朝教育史であるともいえる。

(東洋・尊經閣・宮城・宮内庁書陵部)

『小学』が難解であるために、旧韓末以後『小学』をもとにして編まれた朝鮮独自の『海東続小学』が行なわれたことは注目される。『古鮮冊譜』は朴在馨(密陽人云、嶺南の儒、同治中の人なるべし)撰として4点をかかげている。高麗以来の名儒・碩輔・遺逸・義士・淑媛等の嘉言・善行を諸書より拾集し、朱子『小学』の篇目によって類別している。全6巻。

(東洋・天理・大阪)

『千字文』は同じ文字を再度使用しないため、文としてはその形成にかなり無理があり、朴趾源(1737~1805、号・燕巖)の批判をうけたが、著者・成立年代未詳の『四字小学』は文の意味が身近な道徳的内容としてまとまっております。かつ「我」などのように同じ文字が重出し、重要な文字とその意味を十分に学ぶようになっており、これらの点が実際に教授の上で至便であると指摘されている。『四字小学』の多くは朱子『小学』や『擊蒙要訣』などを用いており、初句は大部分「父生我身 母育我身」とし、その章の題名は「第一言事親」となっているが、この句の前に「天覆地載 万物之象 人生其間 惟人最靈」が先行しているものもある。すなわち生活の実際にもっとも近い父母のことから始まっているものと、宇宙の原理から演繹的に説こうとするものと、二つの発想態度がうかがえる。各本により配列・字句に異同がある。大正7(1918)年の総督府訓令では『四字小学』に触れていないが、全羅道地域でかなり広範に流布していたようである。

御製小学指南

- ① 思賢閣校正
- ② 英祖42(1766)年
- ④ 1冊(21丁) 活字本 34×22 四周双辺 24×17 有界 8行15字 上

花紋魚尾

- ⑤ 内賜本。前表紙裏に「乾隆三十一年正月十三日内賜承政院右副承旨任竣御製小学指南一件命除謝恩 右承旨臣李花押」と書す。扉に「南北漢蔵板」とある。英祖（在位1724～1776）がその42（1766）年に『小学』を重講したとき、題辭と内外篇について訓義をつくり、兪拓基らに校正させて刊行し、任竣に頒施されたものである。卷首に序・小識を付し、朱でハングルの吐を付し、一節ごとに漢文の注解を施している。上巻は題辭、下巻は内篇（立教・明倫・敬身・稽古）と外篇とを収める。綴紐は五針眼訂法。（図1・2・3参照）

海東統小学 乾・坤

- ① 朴在馨著
 ② 甲辰（1884年）4月序 ③ 嶺南 密陽
 ④ 6巻2冊 木版本 29×19 四周単辺 20×15 有界 10行18字 花紋上下白魚尾
 ⑤ 卷首に李滉（1501～1570、号・退溪）の小学図を載せ、ついで篇目・引用書冊目録（64点の朝鮮の諸文献を列挙）、さらに二つの序（許伝、1797～1886。李裕承）・題辭（李晩寅）が収められている。坤巻の末尾に朴在馨の跋がある。内篇（立教・明倫・敬身・稽古）と外篇（嘉言・善行）から成り、朴氏一族が子弟の教育用に使用した典型的な教科書である。（図4・5参照）

海東統小学 全

- ① 朴在馨纂輯 崔南善編
 ② 明治45（1912）年 ③ 京城 朝鮮光文会
 ④ 1冊 活字本 22×15
 ⑤ 序・題辭・跋を省き、代りに編者の序文がある。それによると李奎鳳寄本の木版本2冊を複製したものという。別冊はハングル訳本（横組）で、原文を付す。1973年刊。

大東小学

- ① 兪直基編
- ② 1976年 ③ ソウル 景文社
- ④ 1冊(50丁) オフセット(写本) 27×20
- ⑤ 跋に「丙寅(1746年)春陶菴(李緯)書」・「永曆五戊子(1888年)陽復前
十日重翁(金平默)識」・「上章困敦夏(庚子, 1900年)五月門人金永根謹書」
とあり、眉上に注解を、本文中に割注を、いずれも漢文で記す。上(嘉言)・
下(善行)2編より成る。嘉言・善行を朝鮮の諸書より集めたもので、『小
学』の続編。(図7参照)

初学要語

- ④ 1冊(25丁) 写本 20×20 一部上下有辺 8行14字
- ⑤ 前表紙に「四字小学 己未九月日」、後表紙に「辛卯五月日 聯珠詩」と
記す。『初学要語』のあとに前赤壁賦・後赤壁賦・漁父辭・五柳先生伝・醉
翁亭記・黃州竹樓記・春夜宴桃李園序・岳陽樓記・周易程子伝序・日月経・
天心経を取める。1983年全州にて入手。

四字小学(外題 漢文)

- ④ 1冊(12丁) 写本 21×21 無郭無界 8行8字
- ⑤ 表紙に「盧柄武」、第2丁に「辛卯十二月十四日」と記す。「父兮生我
母兮育我」に始まる。1983年全州にて入手。

小学読本

- ① 学部編輯局編
- ② 開国504(1895)年仲冬 ③ ソウル 学部編輯局
- ④ 写真36枚(31頁)
- ⑤ ハングル漢文体。立志・勸戒・務実・修徳・応世の5篇より成る。

四（字小）学

- ④ 1冊（22丁） 写本 24×22 無郭無界 6行4字
- ⑤ 前表紙は破損。後表紙に「戊辰年□月念日」と記す。「父生我身 母育我身」の前に22行の四字句がある。1983年全州にて入手。

四字小学

- ④ 1冊（10丁） 写本 21×21 無郭無界 8行8字
- ⑤ 表紙は破損。前表紙に「庚午孟夏」、後表紙に「四字小学袈」と記す。配列や字句に異同がみられる。1983年全州にて入手。

四字小学

- ④ 1冊（14丁） 写本 19×21 無郭無界 8行4字
- ⑤ 表紙に「全羅北道井邑郡甘谷面儒丁里」・「冊主金春成」・「昭和拾（1935）年陰拾叁月九日袈」と記す。「父生我身 母育我身」に始まる。『四字小学』（外題 漢文）と文字に異同がある。1983年全州にて入手。

四字小学

- ④ 1冊（7丁） 写本 22×20 無郭無界 8行8字
- ⑤ 表紙に「木下里私塾」・「丙子念九月廿一（七？）日袈」・「金炯均」と記す。配列や字句に異同がある。1983年全州にて入手。

四字小学

- ④ 1冊（14丁） 写本 19×18 無郭無界 6行4字
- ⑤ 表紙に「甲午貳月十一日」・「金連洙」、表紙裏に「甲午正月三十日」と記す。配列や字句に異同がある。1983年全州にて入手。（図6参照）

原本小学集註 卷之貳，下

- ① 郷民社編輯部編

- ② 1967年 ③ 大邱 郷民社
 ④ 2冊(巻2, 巻5・6) 活字本 21×15
 ⑤ ハングル漢文体。巻2・明倫篇, 巻5・嘉言篇, 巻6・善行篇の注解。

小学諸家集註

- ④ 1冊(巻2) 活字本 26×17 四周単辺 19×13 有界 11行30字
 上黒魚尾
 ⑤ ハングル漢文体。巻2・明倫篇の注解。

小学諸家集註

- ④ 1冊(巻3) 写本 23×21 無郭無界 12行20字
 ⑤ 扉に「金源絵冊字明元」と記す。一部に吏吐あり。巻3・敬身篇の注解。

小学諸家集註

- ④ 1冊(巻3・4) 写本 28×20 無郭無界 15行30字
 ⑤ 一部に諺吐あり。巻3・敬身篇, 巻4・稽古篇の注解。(図8参照)

啓蒙篇類

『啓蒙篇諺解』の系統のもので、『古鮮冊譜』は「著者年代共に不詳」とし、2点を録す。東洋文庫・大阪府立図書館の目録には「朝鮮李応憲著」とあるが、成立年代は不詳である。各種の刊本がある。漢文で天地間の現象や人道の大倫を簡潔に説き、それにハングルで音読・訓義をつけ加えたものであるが、吐・解は各本により若干の相違がみられる。内容は首篇・天篇・地篇・物篇・人篇に分かれ、首篇の冒頭には「上有天 下有地 天地之門 有人焉 有万物焉 日月星辰者 天之所係也」(ハングルの吐は空格として省略)とあり、人篇の冒頭には「万物之中 惟人 最靈 有父子之親 有君臣之義 有夫婦之

別 有長幼之序 有朋友之信 」(ハンダルの吐は空格として省略)とあり、五倫五常を説いているが、『童蒙先習』の初めの部分と同じ内容である。末尾に九容・九思の道学的な訓諭を記しているが、『童蒙先習』のように自国の歴史を説いて、民族的興起をうながすような句はない。また物篇の冒頭には「天地生物之数 有万其衆 而若言其動植之物則草木禽獸 虫魚之属 最其較著者也 」(ハンダルの吐は空格として省略)とあり、鉱物類には言及せず、植物の部分には「水陸草木之花 可愛者 甚衆而陶淵明 愛菊 周濂溪 愛蓮 」(ハンダルの吐は空格として省略)とあるように、自然科学的な叙述はない。『千字文』・『童蒙先習』について広く流布されていたらしい。

(国会・東洋・蓬左・天理・大阪・宮内庁書陵部)

啓蒙篇諺解 (1)

① 鄭東錫著作

② 大正10 (1921) 年 ③ 京畿道安城郡 広昌書館

④ 1冊 (13丁) 木版本 28×20 四周単辺 22×17 有界 12行20字 上
花紋魚尾

⑤ 諺吐あり。『玉篇』はなく、(3)と同種。奥付上部に「朝鮮総督府許可」とある。朝鮮紙を用い、綴紐の綴じは五針眼訂法である。(図20参照)

啓蒙篇諺解 (版心書名) (2)

① 姜義永編輯

② 昭和2 (1927) 年 ③ 京城 永昌書館

④ 1冊 (13丁) オフセット (木版本) 26×19 四周単辺 22×17 有界
12行20字 上花紋魚尾

⑤ 表紙に「壬午二月日」と記す。諺吐あり。第1・2丁を欠く。(3)と同種。

正本啓蒙篇諺解 (外題 懸吐註解啓蒙篇)

① 郷民社編輯部編

- ② 1967年 ③ 大邱 郷民社
 ④ 1冊(20頁) 活字本 22×16
 ⑤ 最近まで、韓国の市井で一般に販売されていた質の悪い安ものの活字本。
 『玉篇』(啓蒙漢字索引)4頁が付されている。

正本啓蒙篇諺解(外題 懸吐註解啓蒙篇)

- ④ 1冊(16頁) 活字本 23×18
 ⑤ 前掲書と同じ。ただし『玉篇』も奥付もない。

啓蒙篇諺解(外題 啓蒙篇) (3)

- ④ 1冊(13丁) オフセット(木版本) 26×19 四周単辺 22×17 有界
 12行20字 上花紋魚尾
 ⑤ 『玉篇』はなく、(1)・(2)と同種。(図21参照)

正本啓蒙篇諺解(外題 啓蒙篇)

- ④ 1冊(22頁) オフセット(木版本) 26×19
 ⑤ 諺吐あり。後表紙を欠く。外題の各漢字の下にハングルで音が記されており、外題にハングルが記されているのは珍しい。(1)の影印と思われるが、仙花紙が用いられ、綴紐は日本式に四針眼訂法である。奥付はないが、昭和になってからのものであろう。

啓蒙篇

- ④ 1冊(10丁) 写本 22×19 無郭無界 9行14字
 ⑤ 前表紙に「壬辰春」と記し、諺吐(略符号)あり。

啓蒙篇

- ④ 1冊(12丁) 写本 21×22 無郭無界 10行11字
 ⑤ 扉に「丁丑八月上浣謄書」と記す。一部に吐あり。人篇に配列が異なる部分

および落丁がある。末尾に「騎車詩」が付され、日本語の片仮名の50音や干支・九九などをかかげる。

啓蒙篇

④ 1冊(15頁) 写本 21×15

⑤ 前表紙に「造年月日乙酉拾壹月貳拾五日」、後表紙に「全羅扶安郡□浦面新里」・「冊主金在根」と記す。諺吐あり。

啓蒙篇諺解 (4)

④ 1冊(19丁) 木版本 29×18 四周単辺 23×16 有界 11行20字 上花紋魚尾

⑤ 諺吐・諺訓あり。(5)と同種。(図22参照)

啓蒙篇諺解(外題 啓蒙) (5)

④ 1冊(19丁) 木版本 29×18 四周単辺 23×16 有界 11行20字 上花紋魚尾

⑤ 諺吐・諺訓あり。(4)と同種。

啓蒙篇諺解(版心書名)

④ 1冊 オフセット(木版本) 25×19

⑤ 前・後表紙を欠く。(2)・(3)と同系。第1・13丁を欠く。

明心宝鑑類

『古鮮冊譜』は「華本翻印」と記し、「撰人無考」とか、「撰人未詳」として9点を録している。従来、高麗時代の露堂秋適の編と伝えられてきたが、1977年に清州版の『新刊校正大字明心宝鑑』が影印刊行され、巻首に「洪武二十六(1393)年歳在癸酉二月既望武林後学范立本序」とあり、明初に范立本が撰し

た書であることが明らかになった。同書の巻尾に「景泰五（1454）年甲戌十一月初吉奉直郎清州儒学教授官庾得和謹跋」とみえ、清州において中国本に校正を加えて刊行されたものである。撰者の范立本の伝は不明であるが、内閣文庫蔵の明刊本（2巻）に「太倉 縉山 王衡校」とあり、この王衡は万曆（1573～1620）の進士で、編修を授けられている。また『明実録』巻191・万曆15（1587）年10月辛酉の条にみえる御史林文英の疏によれば、本書が教化に用いられていたことがうかがえる。内閣文庫には上記明刊本に仿ったらしい寛永8（1631）年刊の和刻本があり、『齋来書目』には寧波船が享保2（1735）年11月に78本を、『商舶載来書目』には寛政10（1798）年に1部1本もたらされたことが伝えられており、わが国における流布が推測できる。なお17世紀にスペイン語訳、19世紀にドイツ語訳されており、安南版やベトナム語の抄訳がある。

朝鮮においては1664年の木版本（甲辰本）、1637年の写本（丁丑本）があり、それが現在の流布本の底本とみなされており、原本の抄本である。内閣文庫本・清州本の目次に記されている篇目別の引用文の条数と現流布本とを比較表示すると、以下のとおりである。

篇目	繼天順孝正安存戒勸訓 善命命行己分心性学子	以 上 上 卷	省立治治安遵存言交婦 心教政家義礼信語友行	以 上 下 卷
内閣文庫本	44 19 15 19 86 16 78 15 23 17 条		252 17 22 16 5 22 7 25 24 5	
清州本	47 19 16 19 117 18 83 15 22 17 条		255 17 23 16 5 21 7 25 24 8	
現流布本	11 7 5 5 26 5 21 9 8 10		85 10 8 8 3 6 0 7 8 5	

内容は中国の古典から箴言を集めたものであるが、のち朝鮮で成立した抄本には朝鮮の箴言が加えられている。朝鮮総督府令第18号の書堂規則には、使用

可能な漢籍の一として挙げられている。

(東洋・内閣・尊経閣・大阪・宮内庁書陵部)

明心宝鑑抄 上・下

- ④ 1冊(39丁) 写本 25×21 無郭無界 9行17字
- ⑤ 扉に「己亥(光武2年, 1898年)元月二日」と記す。巻頭に「誠諭心文生」と「冠采公六悔銘」とをかかげ、本文の孝行・安分・存心・省心・立教・遵礼の各篇に、引用条文の増減がある。末尾に『太極説』・『素書』・『周易』序・『書伝』序を付す。(図24参照)

懸吐具解校正増補新無双明心宝鑑

- ① 世昌書館編集部編纂
- ② 昭和9(1934)年 ③ 京城 世昌書館
- ④ 1冊(98頁) 活字本 22×15
- ⑤ 欄外にハングルで難語の解を施し、漢文中にハングルの吐が割注で入れてあり、音による棒読み諺音を右側に付す。省心篇を上・下に分ち、増補篇・八反歌八首・孝行篇続・廉義篇を加う。(図25参照)

原本明心宝鑑

- ① 英崙社編集部編
- ② 檀紀4290(1957)年 ③ ソウル 英崙社
- ④ 1冊(115頁) オフセット(活字本) 21×15
- ⑤ 前表紙に「金世煥」・「庚子小春袞」、後表紙に「全羅道高敞郡羅山面南山里」と記す。扉に1年12ヶ月の農家要覧と祝節日とを表示し、目次を欠く。篇目・各条とも後掲の『懸吐具解増補明心宝鑑』と同じであるが、語解は異なる。省心篇を上・下に分ち、増補篇・勸学篇を加え、巻末には本文中の漢字の解および李太白の名詩20首と金笠(1807~1863)名詩31首とを付す。

増補懸吐具解明心宝鑑

- ① 姜槿馨著作
- ② 檀紀4291 (1958)年 ③ ソウル 永和出版社
- ④ 1冊 (147頁) 活字本 21×15
- ⑤ 破損あり。孝行篇・安分篇・存心篇・立教篇などに増減がみられ、省心篇を上・下に分つ。巻末に増補篇 (54条)・婦儀篇 (17条)・童規篇(14条)を加え、唐詩選 (五言絶句17首・七言絶句21首・五言律詩5首・七言律詩5首)・金笠詩10首および文教 (教の誤?) 部選定の制限 漢字1, 300字 (「天青地黄 海深河長云云」) を付している。

明心宝鑑

- ② 1977年 ③ ソウル 東邦文化社
- ④ 1冊 (124頁) 影印本 27×18
- ⑤ 存信・言語篇 (1丁) および交友篇以下 (2丁) を欠く。(図23参照)

明心宝鑑 (外題)

- ④ 1冊 (20丁) 写本 23×23 無郭無界 12行22字
- ⑤ 表紙に「冊主姜昌求」・「丁亥初秋日袈」と記す。一部に吐あり。訂正のため貼紙を付した箇所がある。安分・省心・立教・交友の各篇に削除が、孝行篇に配列の異同がみられる。末尾に徐仁鎬撰『各姓歌』を収めている。

懸吐具解増補明心宝鑑

- ① (高麗) 露堂秋適原著
- ④ 1冊 (109頁) オフセット (活字本) 21×15
- ⑤ 引用された書名・著者について各条下に簡単な解説を付す。省心篇は上・下に分ち、存信篇を欠き、交友篇は交遊篇とし、増補篇 (『周易』1条)・孝行篇続 (新羅の孫順・向徳, 李朝の都氏)・廉義篇 (新羅の印観・洪夔夔, 高句麗平原王之女)・八反歌八首 (録桂宮誌) を付している。

十九史略通攷・通鑑節要類

曾先之の『十八史略』に明初の梁孟寅が元史を加えて『十九史略』を撰し、それにより明の余進が通攷（通考）を編したものが『十九史略通攷』8巻で、日本・朝鮮に伝えられ、初学者のための中国史概説書であった。『古鮮冊譜』には『史略』として9点、『史略解』2点、『十九史略（通攷）』5点、『（十九）史略諺解』4点が録され、『史略』の名でまとめられているが、宋の高似孫の『史略』とは関係がない。日本では朝鮮本を底本として元和2（1616）年に刊行されている。

（東洋・内閣・静嘉堂・足利・宮城・蓬左）

宋の江贇（少微先生）が『資治通鑑』を刪り、その大要を記したのが『通鑑節要』50巻で、『古鮮冊譜』には8点を録す。

（内閣・尊経閣・足利・宮城・蓬左・大阪）

古今歴代標題註釈十九史略通攷 卷之一

- ① 曾先之編次 余進通攷
- ④ 1冊（42丁） 木版本 15×19 四周単辺 22×17 有界 12行24字 花紋上下白魚尾
- ⑤ 同一家族内で数代にわたり使用されたらしく、かなり使い古された版本である。外題はなく、所有者が自筆で表紙に「史略卷之一」と手書している。細字二行の割注を施す。本書は天皇氏より秦の「昭襄王薨、子孝文王柱立」までを取めている。（図26参照）

古今歴代標題註釈十九史略通攷 卷之一

- ① 曾先之編次 余進通攷
- ④ 写真87枚（東洋文庫蔵本）
- ⑤ 「宣賜之記」等の印記がある。この『十九史略通攷』は英祖48（清・乾隆

37, 1772) 年に刊行された諺解つきの最初のもので、18世紀当時の朝鮮語の用語法を研究するうえでの好資料とされる。

少微家塾点校付音通鑑節要 卷之十六～十九

- ④ 1冊(76丁) 木版本 29×19 四周単辺 18×17 有界 10行17字 上下黒魚尾
- ⑤ 電子復写4枚(ソウル大学校師範大蔵本, 大正12(1923)年鄭殷采・朴寿弘著, 京城, 昌新書館)を付す。卷16(世祖光武皇帝建武元年)から卷19(質帝本初元年)までの東漢紀を収める。肩上に注し, 本文中に釈義(史炤等)を注し, 奥付に「官許」とある。(図27参照)

字書・韻書類

『千字文』とならんで『類合』は西人の朝鮮語研究の足がかりになったといわれ、『類合』も『千字文』と同じく各漢字の下にハングルで音・訓を付してあり, その漢字数はすべて1,512字で、『新增類合』は3,000字を収めている。文字の配列は日用性の度の高いものを選び, 同一類に属する字をたどっていくようになっている。児童の学習心理に適合しており, 「天覆地載 乾坤分位 東西南北 上下中外 左右前後 辺隅裏内云云」とつづく。『古鮮冊譜』には『新增類合』も含め8点をかかげている。貝原益軒の和刻本もある。

(国会・尊経閣・東洋・天理・宮内庁書陵部)

崔世珍(1473?～1542)の『訓蒙字会』は具体的な語句について3,360字を収録しているが, 配列は天文・地理・花品・花卉・樹木から天倫・儒学・書式に至る上巻, 人類・宮宅・官衙から音楽・疾病・喪葬に至る中巻, 雑語の下巻の3巻に分ち, 類別の形をとっている。「天地霄壤 乾坤宇宙 日月星辰」に始まり, 各漢字の下にはハングルの音訓のほかに, 簡単な解説が漢字で付せられている。『古鮮冊譜』には10点(『訓蒙字彙』も含む)をかかげている。日本所在のものは文禄・慶長の役のおりに持ち帰られたものらしい。

(国会・内閣・尊経閣・東洋・天理)

注解語録総覧

- ① 白斗鏞編 尹昌鉉増訂
- ② 大正8(1919)年 ③ 京城 翰南書林
- ④ 1冊(56丁) 活字本 26×19 四周単辺 21×15 有界 12行28字 上黒魚尾
- ⑤ 全2冊の内の第1冊。『朱子語録』を一字類から六字類までに分けて注解し、『水滸誌語録』を一字類から二十字類までに分けて注解する。奥付に「朝鮮総督府警務総監部認可」とある。語録には宋儒の俗語に訓解を施した李退溪(1501~1570)の『朱子語録集解』,その門人のもの,柳希春(1513~1577)の『朱子語類箋解』があり,鄭澐(1600~1668)の『語録解』はこれを集輯したものである。顯宗(在位1659~1674)朝の儒学者南二星(1625~1683,号・宜拙)が前記二書を総合した語録に編著者の『水滸誌』・『西遊記』・『西廂記』・『三国誌語録』を添加して編したものである。『朱子語類』巻第七(電子複写5枚)を付す。漢文の義解のほか吏文の義解も付している。(図28・29参照)

兎学編・日語類解・韓語初歩

- ① 京都大学文学部国語学国文学研究室編
- ② 昭和45(1970)年 ③ 京都大学文学部国語学国文学研究室
- ④ 1冊 複刻本 22×16
- ⑤ はじめに三書の解題(浜田敦執筆)をかかげる。『兎学編』は丁若鏞(1762~1836,号・茶山)が『千字文』にならって純祖4(1804)年に編した書。隆熙元(1907)年の印刷局點石。上巻は有形千字を天文・時候・干支・地理・江湖・方位・人倫・人品・身体・容貌・氣息・性情・言語・語辞・動靜・宮室・城郭・官職・公式・文学・武備・軍器・婚嫁・宴享・樂器・梳洗・服飾・飲食・疾病・喪祭・寺刹・刑獄・籌數・買売に分類して集め,下巻

は無形千字を田農・禾穀・葉蔬・果実・珍宝・布帛・彩色・器具・鞍轡・舟車・技戯・飛禽・走獸・水族・昆虫・樹木・花草・雑語に分って収める。標字・諺注の体裁は『千字文』のそれにほぼ似ている。写本（天理図書館蔵）で伝えられていたが、田竜吉が原本を増訂し、諺注は字音・韓音とも古形を新しい形に改め、華音（現代中国音）・篆文・所属韻名・日本語音訓・英語を加え、近代的な辞書の形態をとっている。

『日語類解』は金沢庄三郎編、明治45（1912）年の三省堂書店刊。『倭語類解』の改訂版ともいべきもので、日本語学習書である。

『韓語初歩』（原題『雞林語学階梯』）は浦書房編輯，浦瀬裕著（?）。韓語研究の資料として注目されている。

兎学編

- ① 丁若鏞編
- ② 隆熙元（1907）年 ③ ソウル 学部編輯局
- ④ 写真4枚（ソウル大図書館蔵本）および原稿用紙10枚（全文筆写）
- ⑤ 別に書簡一通を付す。前掲書所収の『兎学編』と同じ。

訓蒙字会

- ① 崔世珍著
- ② 1971年 ③ ソウル 東洋学研究所（東洋学叢書 第1輯）
- ④ 1冊 影印本 21×16
- ⑤ 1冊3巻。電子複写6枚を付す。中宗22(1527)年に成る。漢字の初学書。3,360字を上巻（天文・地理・花品・草卉・樹木・菓実・禾穀・蔬菜・禽鳥・獸畜・鱗介・蠅虫・身体・天倫・儒学・書式），中巻（人類・宮宅・官衙・器皿・食饌・服飾・舟船・車輿・鞍具・軍装・彩色・布帛・金宝・音楽・疾病・喪葬），下巻（雑語）に収む。叡山本・東大中央図書館本の二種の影印に，解題（李基文）・索引（国語・漢字）を付す。両本とも漢文解・諺文解があり，東大本には片仮名で日本語の音訓を付す。（図32参照）

新增類合

- ① 柳希春編
- ② 1972年 ③ ソウル 東洋学研究所（東洋学叢書 第2輯）
- ④ 1冊 影印本 21×16
- ⑤ 延世大学金東旭教授蔵の万曆4（1576）年刊本（1冊2巻）を影印。上巻（数目・天文・衆色・地理・草卉・樹木・果実・禾穀・菜蔬・禽鳥・獸畜・鱗介・虫豸・人倫・都邑・眷属・身体・室屋・鋪陳・金帛・資用・器械・食饌・衣服）に千字，下巻（心術・動止・事物）に二千字を収め，諺解を施す。解題（安秉禧）・索引（国語・漢字）を付す。（図30・31参照）

字会

- ④ 1冊（14丁） 写本 17×21 5行5字
- ⑤ 稚拙な文字で書かれており，移秧・大夾黄・聞鶯・鷺子・白鳩・白鶴・鴻鴈・杜鵑・聞蟬・昼梅月・老僧・避暑・桃源・螢火・除草・明月・飲酒・征婦・流頭・放牛・老松・緑飲・立秋・稻花・野望・玉穂・甘蔗・雨中即事などの題で五言絶句が記され，各題の下に「字会」と書いているが，崔世珍の『字会』とは全く異なる。

類合

- ④ 写真22枚
- ⑤ 東洋文庫蔵シーボルト本。首部を欠く。15世紀初のものか。

類合？

- ④ 1冊（5丁） 写本 23×21 無郭無界 5行8字
- ⑤ 前後の表紙なし。ハンダルの釈・訓を付す。『類合』に類するものであろうが，未詳。1983年全州にて入手。

旧韓末学部編集教科書類

1897年李氏朝鮮国は国号を大韓と改め、1908年9月私立学校令発布と同時に教科用図書検定規程を發布し、教科用図書の取締りを行なった。修身・国語・漢文・歴史・地誌地文・理化・数学・博物生理・体操・農工商・教育・日語其他・法制経済・辞書などの諸科目にわたり、1910年5月末現在で117点の検定出願があり、うち55点が認可されている。認可された教科書のうち、もっとも多いのは博物生理の12点で、地誌地文・理化の各7点、歴史の6点、国語・数学の4点がこれについている。

朝鮮歴史 (1)

- ① 学部編輯局編
- ② 開国504 (1895) 年仲秋 ③ ソウル 学部編輯局
- ④ 2冊 木活字本 28×18 四周単辺 22×15 有界 10行20字 上花紋白魚尾
- ⑤ ハングル漢文体。巻1は檀君紀・箕子紀(箕否・箕準, 馬韓・辰韓・弁韓を付す)・新羅紀(高句麗・百済を付す), 巻2は高麗紀, 巻3は本朝紀。王朝別の編年体で、眉上に年代を注記する。巻1は36丁, 巻2は35丁, 巻3を欠く。(図33・34参照)

朝鮮歴史

- ① 学部編輯局編
- ② 開国504 (1895) 年仲秋 ③ ソウル 学部編輯局
- ④ 巻1～3 写真(京都大学河合文庫蔵本)
- ⑤ (1)の写真版。

朝鮮歴代史略

- ① 学部編輯局編

- ② 開国504 (1895) 年孟冬 ③ ソウル 学部編輯局
 ④ 卷1～3 写真(京都大学河合文庫蔵本)
 ⑤ 『古鮮冊譜』に1点かかげられている。漢文で記され、眉上に年代(西紀・干支)を注記する。巻首に朝鮮歴代史略総目・法例を記し、檀君朝鮮・箕子朝鮮・三韓(馬韓・辰韓・弁韓)・衛滿朝鮮・四郡二府・新羅・高句麗・百濟・高麗・本朝・朝鮮の順に叙述する。

(東洋)

大東歴史

- ① 鄭喬著
 ② 光武9 (1905) 年 ③ ソウル 学部編輯局
 ④ 卷1～5 写真(京都大学河合文庫蔵本)
 ⑤ 漢文で記され、序(李愨榮)・叙(鄭喬)・凡例・大東歴代引・大東歴代総図・系図の順にかかげられ、第1巻は1212年間(檀君元年より)、第2巻は464年間(己卯より朝鮮孝宗17年まで)、第3巻は465年間(朝鮮天老王元年より丁未朝鮮哀王28年まで)、第4巻は161年間(馬韓武康王元年より元王26年まで)、第5巻41年間(稽王元年より王学25年まで)を叙述する。『古鮮冊譜』に3点かかげられている。

(東洋・大阪)

精選万国史

- ① 金祥演撰述
 ② 光武10 (1906) 年 ③ 京城 皇城新聞社
 ④ 1冊(180頁) 活字本 22×15
 ⑤ ハングル漢文体。序(金祥演)・叙(尹晶錫)について第1編(古代史一総論・東洋諸国・欧州諸国)、第2編(中世史一総論・列国共同事件・列国発達)、第3編(近世史一総論・発明発見・宗教改良・霸王輩出・欧州大乱

・各国統一)に分って叙述する。(図36参照)

初等本国歴史 全

- ① 柳瑾著
- ② 隆熙2(1908)年 ③ ソウル 徽文館
- ④ 1冊(60頁) 電子複写 22×15
- ⑤ 統監府学部認可教科書。巻首に本国歴代伝授図をかかげ、上古(檀君・箕子・衛満・三韓・封建時代)、中古(新羅・高句麗・百濟・駕洛・渤海・泰封・甄萱)、近古(高麗)、国朝(本朝)の4章に分って叙述する。

初等本国歴史 全

- ① 安鍾和著
- ② 隆熙3(1909)年 ③ ソウル 広徳書館
- ④ 1冊(66頁) 活字本 22×15
- ⑤ ハングル漢文体。扉の上欄に「学部検定」・「私立学校歴史科初等教育学徒用」と記す。上古(檀君・箕子・衛満・三韓・扶余・上古の文化)、中古(新羅・高句麗・百濟・駕洛・渤海・泰封・甄萱・中古の文化)、近古(高麗・近古の文化)、国朝(本朝・近世の文化)という構成である。国朝の章は「本朝一」から「本朝二十五」に至る節を設けているが、第11代中宗を欠落し、「本朝十」(燕山君)から「本朝十一」(仁宗)になっており、第26代高宗が「本朝二十五」となっている。(図35参照)

名媛新女子宝鑑 全

- ① 金瓊根著
- ② 大正11(1922)年 ③ 京城 永昌書館
- ④ 1冊(122頁) 活字本 22×15
- ⑤ ハングル漢文体。兪珪卿の「名媛新女子宝鑑序」(大正9年)をかかげ、新羅(6人)・高句麗(2人)・百濟(1人)・駕洛(1人)・高麗(6人)・

朝鮮（85人）の列女の伝を記し、それぞれ出典を示している。

朝鮮歴史大全

- ① 張道斌著
- ② 昭和3（1928）年 ③ 京城 博文書館
- ④ 1冊（255頁） 活字本 12×15
- ⑤ ハングル漢文体。上古（古朝鮮・列国），中古（三国前期・三国後期・新羅・渤海），近古（高麗），近世（朝鮮），最近（大院君執政以後時代・日清戦役以後時代）に分って記述し、歴代世系・歴代人物図像を付す。

開化期教科用図書

- ① 康允浩著
- ② 1973年 ③ ソウル 教育出版社
- ④ 1冊（590頁） 活字本 25×18
- ⑤ ハングル漢文体。開化期の教科書編纂始末を明らかにし、教科書の実態調査ならびに1895～1910年間の類型を抽出し、教科用図書に使用された外来語の表記の実態を述べている。

韓国開化期教科書叢書

- ① 韓国学文献研究所編
- ② 1977年 ③ ソウル 亜細亜文化社
- ④ 20冊 複刻本 22×16
- ⑤ 国語篇全8巻 I. 国民小学読本（学部編纂 1895年），小学読本（学部編纂 1895年），新訂尋常小学（学部編纂 1896年）。II. 幼年必読（玄采著 1907年），初等女学読本（李源兢著 1908年），蒙学必読（崔在学著 ？），労働夜学読本（兪吉濬著 1908年）。III. 幼年必読積義（玄采編述 1907年）。IV. 初等小学（大韓国民教育会編纂 1906年），樵牧必知（鄭崙秀著 1903年）。V. 高等小学読本（徽文義塾編纂 1906年），最新初等小学（鄭寅琥編述

1908年), 初等小学(普成館著作 ?)。Ⅵ. 国語読本(学部編纂 1906年)。Ⅶ. 新纂初等小学(玄采著 1909年)。Ⅷ. 너주독본(張志淵編輯 1908年), 婦幼独習(姜華錫著 1908年)。

修身・倫理篇全2卷 I. 夙恵記略(学部編纂 ?), 初等修身(朴晶東著 1909年), 中等修身教科書(徽文義塾編 1908年), 高等小学修身書(徽文義塾編 1908年), 普通学校学徒用修身書(学部編纂 1909年)。Ⅱ. 倫理學教科書(申海永編 1906年), 初等倫理學教科書(安鍾和訳 1907年), 너주조학수신서(盧炳喜著 1909年)。

国史篇全10卷 I. 朝鮮歴史(学部編纂 1895年), 朝鮮歴代史略(学部編纂 1895年)。Ⅱ. 東国歴代史略(学部編纂 1899年)。Ⅲ. 東国歴代史略(学部編纂 1899年), 大韓歴代史略(学部編纂 1899年), 朝鮮略史十課(学部編纂 ?)。Ⅳ. 普通教科東国歴史(玄采編輯 1899年), 初等大韓歴史(鄭寅琥纂輯 1908年)。Ⅴ. 歴史輯略(金沢栄撰 1905年)。Ⅵ. 中等教科東国史略(玄采訳述 1905年), 初等本国歴史(安鍾和著 1909年)。Ⅶ. 大東歴史(崔景煥編集 1905年), 大東歴史(鄭喬編集 1905年), 初等大東歴史(朴晶東著 1909年)。Ⅷ. 大東歴史略(国民教育会刊 1906年), 대한력스(힐버트・吳聖根共著 1908年)。Ⅸ. 新訂東国歴史(元泳義・柳瑾纂輯 1906年), 国朝史(元泳義口述 ?)。Ⅹ. 初等本国歴史(柳瑾著 1908年), 초능대한력스(조종만編 1908年), 新撰初等歴史(柳瑾著 1910年), 初等本国略史(興士団編 1909年)。

各巻に発刊の辞と各巻ごとの解題を収載している。李瑄根東国大学校総長より渡部学先生に寄贈された書。

朝鮮略史 全

- ① 学部編輯局編
- ③ ソウル 学部編輯局
- ④ 写真および電子複写(京都大学河合文庫蔵本)
- ⑤ ハングル漢文体。檀君朝鮮・箕子朝鮮・三韓・衛滿朝鮮・四郡二府・新羅

・高句麗・百濟・高麗・本朝朝鮮の10課に分ち、新羅以下の国はそれぞれ概説を記し、ついで官制・年号・城鎮・版図・国教・学校・寺院・書籍・名人・衣冠・飲食・居処・外交・工芸について簡潔に述べている。

旧韓末教科書（冒頭部分）

- ④ 梨花女子大康允浩コレクションの写真78枚
- ⑤ 旧韓末に使用された各教科の教科書の冒頭部分を写したもので、地理・法学・国家学・商法・経済学・商業学・簿記・外交・教育学・心理学・博物学・物理・化学・生理衛生学・農業・鉱物などの各教科にわたる。

蒙諭篇

- ① 〔張混著〕
- ④ 写真および電子複写（ソウル師範大蔵本）
- ⑤ 張混（1759～1828、号・而已）の著。『古鮮冊譜』は2点かかげている。上巻は身形・年紀・称号・位分・名物という類別形式で、主として2字構成の語句を漢字でかかげ、「天顔 童顔 玉色」のように同義異名を併記し、多くの語句にはハングルで訓・釈を割注している。下巻は人名類彙で、德行・勲業・文章・芸術・稟賦・隱逸・異端に分け、時代順に列記している。そのうち称号まで（3丁）の写真。

（東洋・天理）

詩 文 類

『千字文』や『四字小学』を学習ののち、詩文の書として編著者不明の『推句』が教授されたい。内容は天・地・父・君・春・夏・秋・冬などを冠頭に置いた五言の句を連ねたものである。

『古文真宝』は元の黄堅が撰した詩文の選集で、前集10巻・後集10巻。前集は漢～南宋の古体詩を五言短編・五言長編・七言短編・七言長編・長短句・歌

・行・吟・引・曲の詩形に分類し、後集は戦国末～北宋の文を辞・賦・説・解・序・記・箴・銘・文・頌・伝・碑・辯・表・原・論・書の17文体に分類し、塾の教科書として編まれた。元・明時代に広く流布し、日本・朝鮮でも覆刻され、多くの注釈書も現われた。本書は朝鮮総督府令第18号の書堂規則に使用可能な漢籍の一つとして挙げられている。

(内閣・静嘉堂・尊経閣・宮城・大阪・宮内庁書陵部)

『濂洛風雅』は元金の履祥撰、6巻。濂溪の周敦頤、洛陽の程顥・程頤から王柏・王偁に至る48人の詩を集め、『毛詩』の風・雅に擬して編まれたもので、詩人の詩・道学の詩と分つのはこの書に始まるという。『古鮮冊譜』には4点を録している。

(東洋・日比谷・蓬左・宮内庁書陵部)

ほかに詩の教科書としては主に『唐詩』・『唐律』が使用されている。『古鮮冊譜』は「通名唐詩正音又略唐詩」・「唐音十四卷元楊子宏編」などと記し、26点(『唐律』・『五言唐音』などを含む)かかげている。

推句(外題) (1)

- ④ 1冊(17丁) 写本 22×18 無郭無界 8行10字
- ⑤ 表紙に「昭和二十(1945)年四月袈」と記す。「天高日月明 地厚草木生」・「父母乾坤并 君臣上下分」・「春来李花白 夏至樹葉青 秋涼黄菊発 冬寒白雪来」に始まる。1983年全州にて入手。

推句(外題) (2)

- ④ 1冊(14丁) 写本 19×22 無郭無界 4行5字
- ⑤ 破損あり。(1)の春・夏・秋・冬の句について「春水蒲四沢 夏雲多奇峰 秋月揚明輝 冬嶺秀孤松」と記し、配列は不同である。1983年全州にて入手。(図39参照)

推句集（外題）

- ④ 1冊（9丁） 写本 19×19 無郭無界 6行5字
 ⑤ 前表紙に「賓胡吉」と記す。(1)・(2)とも若干の異同あり。1983年全州にて入手。

推句五言（外題）

- ④ 1冊（9丁） 写本 14×20 無郭無界 6行5字
 ⑤ 前表紙に「主朴同奎」, 後表紙に「癸酉年十月三十(日)袈」と記す。破損あり。配列は不同。1983年全州にて入手。(図37・38参照)

聚句（外題）

- ④ 1冊（9丁） 写本 16×20 無郭無界 8行10字
 ⑤ 前表紙に「全北茂朱郡安城面公正里峰山」・「甲午年榴夏月膳」・「主人賓鳳吉」と記す。『推句』の五言句と同種。1983年全州にて入手。

懸吐註解古文真宝 前集

- ① 金東縉著
 ② 檀紀282 (1949) 年 ③ ソウル 徳興書林
 ④ 1冊(143頁) 電子複写 21×14
 ⑤ 巻首に「前進士宋伯貞音釈」・「後学京兆劉刻校正」とあり、眉上および本文中に漢文の釈を注する。吐はハングル。はじめに「諸賢姓氏事略」として七国(2人)・漢(3人)・魏(2人)・晋(4人)・宋(2人)・斉(1人)・梁(2人)・唐(29人)・宋(31人)をかかげる。巻1は勸学文(真宗・仁宗・司馬温公・柳屯田・王荆公・白楽天・朱文公・符誥書城南), 巻2は五言古風短篇, 巻3は五言古風長篇, 巻4・5は七言古風短篇, 巻6は七言古風長篇, 巻7は長短句, 巻8・9は歌類, 巻10・11は行類, 巻12は引類・曲類・辞を取める。

詩家・(古文)真宝

- ④ 1冊(33丁) 写本 21×22 無郭無界 12行21字
- ⑤ 七言古詩の部分を取む。

濂洛風雅 乾(内題 増刪濂洛風雅)

- ④ 1冊(巻1～3) 写本 29×18 四周単辺 21×14 有界 10行20字
花紋上下白魚尾
- ⑤ 扉に「崇禎二百六十五年 永曆二百四十六年王上二十九年 清十八年(高宗29年, 1892年)」と記し, 蔵印あり。序に「元貞二(1296)年四月既望後学唐良瑞進之敬書于石泉精舍」とあり, 重刊序に「弘治庚申(13年, 1500年)秋八月望日賜進士第主刑曹事南山潘府謹書」とあり, 増刪序に「在戊午閏三月壬子潘陽朴世采書時崇禎紀元之後五十有一(1678)年也」とある。はじめに「濂洛風雅伝派之図」をかかげる。別冊として「濂洛風雅 単 龍意珠」と表紙に記す詩文集(写本)を付す。(図42・43・44参照)

増訂註解七言唐音

- ① 南宮濬著 唯一書館編輯部編述
- ② 大正8(1919)年 ③ 京城 漢城書館
- ④ 1冊(121頁) 活字本 23×16
- ⑤ ハングル漢文体。七言絶句を集成。

唐詩

- ④ 1冊(19丁) 写本 22×18 無郭無界 11行14字
- ⑤ 表紙に「戊戌四月日」と記す。各種唐詩の集成。

唐音

- ④ 1冊(17丁) 写本 22×14 無郭無界 6行13字
- ⑤ 表紙に「甲午年月日」・「林鍾珠」, 表紙裏に「仁川市清川洞四一三番地

富来作来場 安秉允」と記す。五言絶句の集成。

聯珠詩 単

- ④ 1冊(16丁) 写本 28×18 無郭無界 8行18字
- ⑤ 前表紙に「壬子七月二十四日」、後表紙に「慶尚南道金□□生林」と記す。朱入。七言絶句の集成。『唐宋千家聯珠詩』(元・于濟蔡正孫同輯)の一部。(図40参照)(宮内庁書陵部)

唐音

- ④ 1冊(24丁) 写本 23×22 無郭無界 10行13字
- ⑤ 後表紙に「壬午五月吉□」と記す。五言絶句の集成。

杜詩 鈔

- ④ 1冊(31丁) 写本 21×15 無郭無界 8行21字
- ⑤ 表紙に「壬午十一月四日」、扉に「戊寅六月日書」と記す。五言律詩の集成。韓碑・琴心挑之を付す。筆者は複数であろう。

散句集合

- ④ 1冊(14丁) 写本 13×14 無郭無界 10行14字
- ⑤ 表紙に「冊主姜昌求」・「律集 弼徳斎」・「戊子二月」、巻尾に「全羅北道 長水郡長水面大成里 卞必徳」と記す。七言詩の集成。四声の音韻を付す。

唐音

- ④ 1冊(24丁) 写本 24×15 無郭無界 12行13字
- ⑤ 五言絶句の集成。(図41参照)

唐律 抄

- ④ 1冊(26丁) 写本 29×20 無郭無界 8行14字
- ⑤ 表紙に「乙卯十月日」と記す。朱点あり。

詢抄

- ④ 1冊(23丁) 写本 24×21 無郭無界 8行14字
- ⑤ 表紙に「甲子十二月初一日袈」と記す。詩文関係文書12点を付す。

詩抜粹

- ④ 1冊(19丁) 写本 22×20 無郭無界 10行14字
- ⑤ ハングル漢文体。

そ の 他

編著者不明の『万物』は初学者用の簡にして要をえた類書ともいうべきものである。

『高峯先生文集』は奇大升(1527~1572,号・高峯)の正・続・別集より成る全著作集である。

(東洋)

『儒胥必知』は請願書や告訴状、諸種の証券などの書式を示したもので、上言・撃錚原情・所志類・单子類・告目類・文券類(以上上巻)・通文套・吏頭彙編(以上下巻)に分って記述しており、吏族の教育に使用されたものであろう。朝鮮の民俗を知るのに便といわれる。『古鮮冊譜』に5点かかげられている。

(東洋)

『一事編』は中国・朝鮮の文献を抜粹引用した教訓書である。

『夙恵記略』は童児の成熟と学習との関係について、史伝の中から引用した文を年令ごとに区分して幼学の事例を集録した書である。『古鮮冊譜』に2点かかげられている。

(東洋)

『朱夫子訓辭』は朱子の宗法(晦庵先生宗法条目)・家政・家訓・居家要言を集録した抄本である。

『海東統古鏡重磨方』は中国の盤銘類から朱熹（号・晦庵）・真徳秀（号・西山）の著作に至る磨心の材料となる箴銘を採録した李退溪の『古鏡重磨方』（心を磨くこと古鏡を磨くがごとくなるべしとの義）に倣い、朴在馨が海東の賢君・名臣の箴銘を採取・編集した書で、巻首に正祖（在位1776～1800）の詩と朱子・李退溪の詩をかかげている。

（大阪）

『五賢粹言』は任憲晦（1811～1876、号・鼓山）が趙光祖（1482～1519、号・静庵）・李退溪（1501～1570）・李栗谷（1536～1584）・金長生（1548～1631、号・沙溪）・宋時烈（1607～1689、号・尤庵）の五賢人の学問・政事に関する文を抜粋した書である。

『入学図説』は李朝初期の儒者で詩文にも秀でていた権近（1352～1409、号・陽村）が初学者のために撰した書で、前集は天人心性合一之図・同分釈之図・大学指掌之図・中庸首章分釈之図・洛図五行相生図など、『大学』・『中庸』・『易』および理気心性などについて図解し、後集は天文・律呂・詩経・宗法・卜筮などについて図解し、巻末に三峯先生心気理三篇の注解を附載している。心気理篇は老・仏を排し、朱子学を明らかにしようとしている。『古鮮冊譜』は8点かかげており（和刻本を含む）、寛永11（1634）年および慶安元（1648）年には日本で翻刻されている。

（内閣・尊経閣・東急・蓬左・天理）

万物（外題）（1）

④ 1冊（15丁） 写本 19×24 無郭無界 8行12字

⑤ 巻首に「金永玉冊」と記す。天・地・人・兄弟・夫婦・君臣・日月星辰・水・四方・山・衣食・文学・春夏秋冬・雲・雨・風・露・霜・宮室・雪・草・木・花・竹・桃・梨・杜鵑花・梅花・杏花・柳・菊花・蘭草・芍薬・四季花・禽獸・牛・馬・狗・虎・鹿・兎・鳳・鶴・鶏・雉・鶯・鳶・鷹・杜鵑・鷺・鷹・蚊・君・師・父母・兄弟・人について簡潔な解を付す。漢文体。1983年全州にて入手。

万物？

- ④ 1冊(19丁) 写本 18×23 無郭無界 8行10字
- ⑤ 巻尾に「歳在戊辰九月拾三日己亥庚午時」と記す。(1)と若干の異同があり、さらに三綱・五倫・天干(十干)・地支・六甲・古甲干・古支・二十八宿・八卦・八門・六十四卦名・十二月將・相生・相克・相合・天乙貴人・天象・君臣有義・父子有親・夫婦有別・長幼有序・朋友有信・三綱・総論の項を付加している。漢文体。1983年全州にて入手。(図50参照)

高峯先生文集 15巻

- ① 奇大升著
- ④ 11冊 影印本 30×21 上下右双辺左单辺 20×25 有界 10行18字 花紋上白魚尾
- ⑤ 高峯先生文集三巻
 (李退溪, 奇高峯) 両先生往復書三巻
 高峯先生論思録二巻
 (李退溪, 奇高峯) 両先生四七理氣往復書二巻
 高峯先生統集二巻 附一卷
 高峯先生別集二巻 附録
- 崇禎2(1629)年己巳仲冬の序(張維)および年譜を巻首に収む。後孫の奇世勲ソウル高等法院長より渡部学先生に寄贈された書。(図45参照)

儒胥必知 全

- ④ 1冊(45丁) 写本 25×19 無郭無界 12行26字
- ⑤ 巻尾に「乙酉三月日書于静界」と記す。漢文体。(図47参照)

一事編

- ④ 1冊(12丁) 写本 22×23 四周单辺 有界 12行20字
- ⑤ 扉に「冊主金仁伯」・「崇禎后壬辰八月初五日始」、後表紙に「良齋(田愚,

1841～1922, 民間の名儒) 先生宅所定」と記す。漢文体。割注があり, 巻尾に昏書式を付す。(図48・49参照)

夙恵記略

- ④ 1冊(39丁) 写真(京都大学河合文庫蔵本)
- ⑤ ハングル漢文体。

朱夫子訓辞抄(外題 朱夫子訓辞 単)

- ④ 1冊(26丁) 写本 23×15 8行24字
- ⑤ 扉に目録(宗法・家政・家訓・居家要言)と「己酉秋七月日 華南精舎鈔」とを記す。部分的にハングルの吐が施され, 金重菴答朴弼瑞書・良斎先生従衆時中弁・淵齋先生中和殿劄子を加う。1983年全州にて入手。

海東統古鏡重磨方 全

- ① 朴在馨著
- ② 1979年 ③ 大邱 万和亭
- ④ 1巻 木版本 29×19 四周単辺 20×15 有界 10行18字 花紋上下白魚尾
- ⑤ 漢文体。巻尾に朴在馨の跋をかかげている。(図46参照)

五賢粹言

- ① 任憲晦編
- ④ 1冊(47丁) 写本 22×21 無郭無界 12行 19字
- ⑤ 巻1・2・6・7の抜粹。扉に「壬辰五月初八日」と記す。漢文体。なお巻1は道体, 巻2は為学大要, 巻3は格物窮理, 巻4は存養, 巻5は改過遷善克己復礼, 巻6は齊家之道, 巻7は出処進退辞受之義を記している。

入学図説

- ① 権近著
- ② 嘉靖丁未(1547年)春 ③ 栄川郡
- ④ 写真
- ⑤ 漢文体。別冊として千炳其『権近의 〈入学図説〉에 대한研究—教育学的意義를中心으로—』(嶺南大学校論文集 第3輯抜刷 1969)を付す。

朝鮮年表

- ① 張道斌著
- ② 大正10(1921)年 ③ ソウル 漢城図書株式会社
- ④ 1冊(63頁) 活字本 22×15
- ⑤ ハングル漢文体。檀君元年(戊辰, 日本紀元前1673年, 支那堯25年, 西洋紀元前2333年)から同4243年(日本紀元2570年・明治43年, 宣統2年, 西紀1910年)の日韓併合までの年表で, 末尾に歴代沿革・歴代世系の2表をかかげている。

(東洋)

明堂文書

- ④ 1枚 写本 42×34
- ⑤ 風水地理説による墓地・埋葬に関する文書。

参 考 文 献

- 朝鮮総督府：朝鮮図書解題 1932 朝鮮通信社
- 前間 恭作：古鮮冊譜ⅠⅡⅢ 1944・1956・1957 東洋文庫
- 朝鮮総督府中枢院編：朝鮮人名辞書 1937
- 伊藤・大村
梶村・武田編：朝鮮を知る事典 1986 平凡社
- 国立国会図書館蔵書目録 1948—1958 第1編 1962
同 第4編 1966
- 増補東洋文庫朝鮮本分類目録 1979
- 内閣文庫漢籍分類目録 1956
- 改訂内閣文庫漢籍分類目録 1971
- 静嘉堂文庫漢籍分類目録 1930
- 東京都立日比谷図書館蔵
特別買上文庫目録 諸家漢籍 1971
- 尊経閣文庫漢籍分類目録 1934
- 大東急記念文庫書目 1955
- 三康図書館蔵書目録 漢籍篇 1980
- 足利学校貴重書目録 1925
- 宮城県図書館漢籍分類目録 1985
- 名古屋市蓬左文庫漢籍分類目録 1975
- 今西博士蒐集朝鮮関係文献目録 1959
- 大阪府立図書館蔵韓本目録 1968
- 和漢書図書分類目録（宮内庁書陵部）1952
- 酒井 忠夫：中国善書の研究 1960 弘文堂
- 阿部 吉雄：日本朱子学と朝鮮 1965 東大出版会
- 大庭 脩：江戸時代における唐船持渡書の研究 1967 関西大学

- 渡部 学：近世朝鮮教育史研究 1969 雄山閣
- 同 : 総督統治下朝鮮における民間流布在来系教科書本の諸相 (武蔵大学人文学会雑誌, 4—2, 1973)
- 同 : 総督治下韓半島における民間流布教科書本の一断面 (韓, 2—1, 1973)
- 同 : 朝鮮在来民間初等教科書『童蒙先習』の転進相 (思想, 575, 1972)
- 同 : 四字小学について (アジア文化, 10, 1985)
- 同 : 原本『明心宝鑑』影印本の刊行 (韓, 7—3, 1978)
- フリッツ・フォス：『明心宝鑑』について (東北大学日本文化研究所研究報告, 21, 1985)
- 申 正午：『明心宝鑑』の編者について (東方学, 70, 1985)

書名索引

- 一事編46, 49
- 韻抄46
- 易47
- 海東統古鏡重磨方47, 49
- 海東統小学4, 20, 21
- 開化期斗教科用圖書39
- 各姓歌30
- 學校模範4
- 漢日鮮作文千字6
- 漢文22
- 韓語初步33, 34
- 韩国開化期教科書叢書39
- 旧韓末教科書(冒頭部分)41
- 御製小学指南20
- 玉篇25, 26
- 訓子從学帖17
- 訓蒙字彙32
- 訓蒙字會6, 32, 34
- 訓蒙輯要4
- 訓蒙日鮮二千字8
- 啓蒙訓篇4
- 啓蒙篇4, 5, 17, 24, 25, 26, 27
- 啓蒙篇諺解24, 25, 26, 27
- 雞林語学楷梯34
- 擊蒙要訣4, 5, 17, 18, 19, 20
- 懸吐具解校正增補新無双明心
寶鑑29
- 懸吐具解增補明心寶鑑29, 30
- 懸吐具解童蒙先習14
- 懸吐註解啓蒙篇25, 26
- 懸吐註解古文真寶43
- 原本小学集註23
- 原本明心寶鑑29
- 諺解画像童文先習14
- 諺解画像童蒙初学15
- 諺解千字文6
- 諺解童蒙学16
- 諺吐童蒙先習16
- 諺吐幼文初習15
- 古鏡重磨方47
- 古今歷代標題註积十九史略通攷31
- 古鮮冊譜6, 10, 17, 19, 20, 24, 27,
31, 32, 37, 41, 42, 46, 47
- 古文真寶41, 43, 44
- 五賢粹言47, 49
- 五言唐音42
- 語録解33
- 光州千字文7
- 高等小学読本39
- 高等小学修身書40

- 高峯先生文集46, 48
- 國語讀本40
- 國朝史40
- 國朝寶鑑11
- 國民小學讀本39
- 祭儀抄18, 19
- 最新初等小學39
- 三國誌語錄33
- 散句集合45
- 史要聚選19
- 史略31
- 史略解31
- 史略諺解31
- 四字小學8, 20, 22, 23, 41
- 詩家·真寶44
- 資治通鑑31
- 字會35
- 兒學編33, 34
- 七言唐音44
- 朱子語類33
- 朱子語類箋解33
- 朱子語錄33
- 朱子語錄集解33
- 朱子童蒙須知11
- 朱夫子訓辭47, 49
- 儒胥必知46, 48
- 周易29, 30
- 聚句43
- 十九史略31
- 十九史略通攷31
- 十八史略31
- 夙患記略40, 46, 49
- 初學要語22
- 初等修身40
- 初等女學讀本39
- 初等小學(大韓國民教育會)39
- 初等小學(普成館)40
- 初等大韓歷史40
- 初等大東歷史40
- 初等本國略史40
- 初等本國歷史(柳瑾)38, 40
- 初等本國歷史(安鍾和)38, 40
- 初等倫理學教科書40
- 書伝29
- 小學 4, 5, 19, 20, 21, 22, 23, 24
- 小學指南20
- 小學諸家集註24
- 小學讀本22, 39
- 少微家塾点校付音通鑑節要32
- 商船載來書目28
- 樵牧必知39
- 新刊校正大字明心寶鑑27
- 新纂初等小學40
- 新千字篇8
- 新撰初等歷史40
- 新增類合32, 35

- 新訂尋常小学·····39
 新訂東国歴史·····40
 水滸誌·····33
 水滸誌語録·····33
 推句·····41, 42, 43
 推句五言·····43
 推句集·····43
 正本啓蒙篇諺解·····25, 26
 西廂記·····33
 西遊記·····33
 精選万国史·····37
 齋来書目·····28
 石峰千字文·····7
 千字文·····5, 6, 7, 8, 20, 25,
 32, 33, 34, 41
 素書·····29
 增刪濂洛風雅·····44
 增訂註解七唐音·····44
 增補懸吐具解明心宝鑑·····30
 增補文献備考·····12
 統六典·····19
 太極說·····29
 太宗実録·····19
 大学·····47
 大韓歴代史略·····40
 大東小学·····22
 大東歴史(鄭喬)·····37, 40
 大東歴史(崔景煥)·····40
 大東歴史略·····40
 談叢外記·····6
 中等教科東国史略·····40
 中等修身教科書·····40
 中庸·····47
 註解語録総覽·····33
 註解千字文·····7, 8
 朝鮮年表·····50
 朝鮮略史·····40
 朝鮮略史十課·····40
 朝鮮歴史·····36, 40
 朝鮮歴史大全·····39
 朝鮮歴代史略·····36, 40
 通鑑節要·····31, 32
 杜詩·····45
 東国歴代史略·····40
 唐音·····42, 44, 45
 唐詩·····42, 44
 唐詩正音·····42
 唐宋千家聯珠詩·····45
 唐律·····42, 45
 童学初読·····12
 童子習·····14
 童子先習·····14
 童子必習·····4
 童文先習·····4, 14
 童蒙学·····4, 13, 16
 童蒙訓·····16

童蒙須知	10, 11, 17
童蒙初学	4, 12, 15
童蒙先学	4, 16
童蒙先習	4, 5, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 25
童蒙先習諺解	11
童蒙必習	17
二千字	9
日語類解	33, 34
入学図説	47, 50
万物	46, 47, 48
婦幼独習	40
普通教科東国歴史	40
普通学校学徒用修身書	40
名媛新女子宝鑑	38
明実録	28
明心宝鑑	4, 5, 17, 27, 28, 29, 30
明心宝鑑抄	29
明堂文書	50
毛詩	42
蒙学二千字	9
蒙学必読	39
蒙諭篇	41
幼学先習	4
幼年必読	39
幼年必読积義	39
幼文初習	15
幼蒙先習	12, 13

栗谷全書	17
倫理学教科書	40
類合	5, 6, 7, 9, 32, 35
歴史輯略	40
濂洛風雅	42, 44
聯珠詩	45
労働夜学読本	39
倭語類解	34
너중독본	40
너중조한슈신서	40
대한력스	40
조능대한력스	40

渡部学先生寄贈

朝鮮の民間流布初学入門書目録 一付 解説一

1986年10月25日 発行

編集・発行 中央大学図書館

〒192-03 東京都八王子市東中野742-1

電話 0426 (74) 2545

印刷・製本 永和印刷(株)

〒112 東京都文京区水道 2-4-23

電話 03 (813) 5001 (代)
